悠久の歴史と公益の街酒田での、出会いと感動の記録。

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

Rotary International District 2800
2006～2007

LEAD THE WAY

ガバナー月信　地区大会の記録特集号

国際ロータリー第2800地区［2006～2007］　ガバナー：関原 亨司　RI会長：ウィリアムB.ボイド
RＩ理事：重田 政信／渡辺 好政

ロータリーの綱領

ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として、奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹、育成するにある。

第一　奉仕の機会として知り合いを拡めること。

第二　事業及び専門職務の道徳的水準を高めること。
あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること。
そしてロータリアン各自が、業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること。

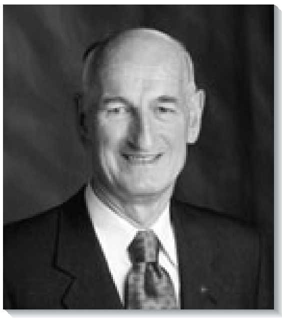
第三　ロータリアンすべてが、その個人生活、事業生活及び社会生活に常に奉仕の理想を適用すること。

第四　奉仕の理想に結ばれた事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること。

四つのテスト

1. **真実**か　どうか
2. みんなに　**公平**か
3. **好意**と**友情**を深めるか
4. みんなの**ために**なるかどうか

RI会長メッセージ



2006～2007年度国際ロータリー会長

ウィリアムB.ボイド

Dear Rotary Friends and Guests attending the District 2800 Conference,

Lorna and I send our warmest greetings to each and every one of you attending this 2006-2007 District Conference. We wish to express our appreciation for the dedication and hard work of Governor Koji Sekihara who, along with the District Conference Committee, have put together a program of comprehensive Rotary information, fun and fellowship. We hope that you will take this opportunity for fellowship, broadening your Rotary horizons and reaffirming your commitment to Rotary and to the principle of Service Above Self as you *Lead the Way* in your communities and in the global village.

There are over 500 district conferences taking place around the world. Lorna and I would like to attend them all, but you will appreciate that this is not possible. We have, therefore, invited Shouichi Maekawa and his spouse, Mariko, to represent us at your District Conference. We hope that you will enjoy their company and their messages during the conference.

I have asked Maekawa to encourage you to reflect carefully upon the ways in which we can demonstrate our commitment to service and our love for humanity. With the strength of our membership, we must continue our efforts to fight hunger, ensure clean water, reach a literate world and provide education for everyone. In our ambition to work for a better world, let's seek cooperation with other entities working with the same issues. Let us together continue to show the world the great leadership of Rotary International through Service Above Self as we go forward to *Lead the Way*.

Kind regards,

Bill Boyd

Bill Boyd
President, Rotary International

ロータリーの皆様、第2800地区大会ご参加の皆様へ

私とローナから2006-2007年地区大会へご参加の皆様へ、ご挨拶を申し上げます。そして、関原亨司ガバナー、地区大会委員の皆様には、ロータリー活動についてご尽力いただき、誠にありがとうございます。どうぞ皆様がこの機会に親睦を深め、ロータリーへの理解を広め、そして地域社会、更には我々の地球全体へのロータリーの誓い「率先しよう」という超我の奉仕の原則を再確認する場と捉えていただけますようお願いいたします。

世界中で500もの地区大会が行われます。本来ならば、私とローナがその全てに参加したいところではありますが、残念ながらそれは不可能です。そこで私たちの代理として前川昭一氏、真理子氏に貴地区の大会に出席を依頼いたしました。大会でお二人と接し、色々な話を楽しんでいただければ、と思います。

私が前川氏にお願いしたことは、人類愛への奉仕と愛の誓いの実践する方法を皆様によくお伝えいただきたいということです。私たちの強靱なメンバーシップを持って、飢えと戦い、清潔な水を確保し、みんなが文字を読み書き出来る世界を目指し、全ての人々に教育の機会を与える努力を続けていきましょう。世界をより良くして行こうという我々の大志をもって私たちと同じ課題に取り組んでいる他の団体との協力の糸口を見つけていきましょう。

私たちは団結して「率先しよう」と超我の奉仕を通し、世界中に国際ロータリーの偉大なるリーダーシップを示していこうではありませんか。

国際ロータリー会長
ビル・ボイド

大会日程／1日目

2006年10月13日［金］／ベルナール酒田

地区大会委員会／1Fホール

9:30　登録受付開始
10:00　諮問委員会／ウインザーイースト・ウエスト
10:30　開　会
　登録委員会　委員長　石黒　慶一
　資格審査委員会　委員長　豊田　義一
　選挙委員会　委員長　野川　桂一
　決議委員会　委員長　野々村政昭
11:00　閉　会

RI会長代理歓迎昼食会／4F グランドボール・ルーム

11:30　登録受付
11:45　開　会
　司会　地区資金委員長　小松　靖和
　御来賓紹介　ガバナー　関原　亨司
　歓迎の挨拶　ガバナー　関原　亨司
　RI会長代理ご挨拶　RI会長代理　前川　昭一
　食　事
12:30　閉　会

第1回本会議／3F オーチャード・ルーム

13:00　登録受付
【会長・幹事会】
13:30　開　会
　司会　地区資金委員長　小松　靖和
　RI会長代理入場
　開会点鐘　ガバナー　関原　亨司
　歓迎の挨拶　地区大会実行委員長　伊藤　三郎
　来賓の紹介及び挨拶　ガバナー　関原　亨司
　RI会長代理挨拶　RI会長代理　前川　昭一
　大会決議案提出　ガバナー　関原　亨司
　　登録委員会委員長　石黒　慶一
　　資格審査委員会委員長　豊田　義一
　　選挙委員会委員長　野川　桂一
　　決議委員会委員長　野々村政昭
　大会決議案採決　ガバナー　関原　亨司
【会長・幹事・地区委員長会議】
　各委員会事業報告各委員長
15:15　閉　会

特別講演／3F オーチャード・ルーム

15:30　開　会
　司会　地区資金委員長　小松　靖和
　講師紹介　ガバナー　関原　亨司
　　講演：第2530地区パストガバナー
　　佐原　元 氏（喜多方RC）
　　演題：「ロータリーと私」
　謝　辞　ガバナー　関原　亨司
16:40　閉会点鐘　ガバナー　関原　亨司
　諸事お知らせ
　休憩

RI会長代理歓迎晩餐会／4F グランドボール・ルーム

17:00　登録開始
　司会　加藤 あきこ
17:30　開　会
　　ガバナー挨拶　ガバナー　関原　亨司
17:35　RI会長代理挨拶　RI会長代理　前川　昭一
　　乾　杯　パストガバナー　濱田五左衛門
　　会食・懇談（アトラクション）
19:00　閉　会

ガバナー挨拶

国際ロータリー第2800地区
2006-2007年度ガバナー
関原 亨司

それでは一言ご挨拶申し上げます。本当に皆さんようこそ集まっていただきました。公式訪問の際は大いに歓迎をいただきましてありがとうございました。本当にロータリーに入って良かったという感慨でいっぱいでございます。公式訪問を終わったクラブの会長幹事さんに改めて御礼申し上げたいと思います。懐かしい顔々で、あの時の熱さ、嬉しさ、苦しさがしみじみと思い出されますが、何よりも嬉しさが一番多多かったということでございます。改めて御礼申し上げます。

去年の地区大会はは石黒年度の鶴岡、今年はご案内のとおり酒田での開催でございます。酒田、鶴岡というのは庄内でございます。同じ庄内で２年続けて地区大会が開催されると言うことは、我々にとっても、あるいは2800地区の歴史の中でも記憶に残ることではないかと喜んでおります。そんな関係で精一杯やらせていただいておりますが、なかなか思うようにいかないことも多々あります。これはロータリーの友としてご勘弁いただければありがたいと思います。

本日は2790地区よりガバナー令夫人白鳥様もお見えになっておりますが、2、3日前にこの酒田に白鳥が飛んでまいりました。この最上川河口への白鳥の飛来数は日本でナンバーワンと言われております。大体１万羽以上白鳥が来るわけでございます。今年の第一陣として2、3日前に白鳥が来たのです。それを追いかけるようにして千葉県から白鳥信子様がお出でになったということで、非常に嬉しい限りでございます。

それから我が庄内には秀峰鳥海山というのがあります。出羽富士とも呼ばれておりますが、これも2、3日前に初冠雪ということで、まさにすがすがしい季節を迎えたところで皆さんからお集まりいただだいて、これもロータリーの記録に残ることかなと思っております。

余談はそのくらいにしまして、ガバナーとして一言言わせてもらわなければならないことがあります。RI会長のウィリアム・ビル・ボイド氏は本地区大会にご自身の代理として東京豊島東ロータリークラブ所属で、現在国際ロータリーの会員組織地域コーディネーターの要職にあります前川昭一様を派遣してくださいました。前川RI会長代理のご指導のもと当地区大会が開催できますことは、本当にこの上ない光栄に存じております。私も一生懸命前川様の真似をしようと思います。真似をすることは学ぶということだそうでございます。

ウィリアム・ビル・ボイドRI会長は「親睦と奉仕を通じて明るい未来をもたらすために120万のロータリアンが力を合わせて率先していくのです」と呼びかけております。それを受けまして我が地区は「地域に根ざした真心の奉仕」という目標を掲げております。この地域とともに生かされている我々ロータリアンは、超我の奉仕、あるいは自己研鑽の奉仕、利己と利他との調和などを通して、率先して地域に根を張ることが今求められているのではないかと考えております。

1年1回の地区大会でございます。当地区大会がロータリアン同士の研修、親睦、交流を通して実りある、有意義で思い出に残る大会になりますようにご祈念申し上げて、簡単ですが歓迎の言葉並びにご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

RI会長代理挨拶

国際ロータリー会長代理
前川 昭一氏
（東京豊島東RC）

皆さんこんにちは。ガバナーから大変元気のいい明るいご挨拶をいただきました。RIの現況報告は明日にいたしまして、今日は15分程ご挨拶をさせていただきたいと思っているところであります。

今日はお見受けしますとこの地区の最高の幹部の方々、それと会長、幹事さんがお集まりでございます。この中で一番偉いのは誰だと思いますか。それはクラブの会長ですよ。ロータリークラブというのはRIの会長でもなければ、ましてやいわんやその代理なんかどうでもいいのであって、あくまでもロータリアン一人ひとりが一番大事なんです。その一人一人の組織であるクラブ、これが原点であるわけであります。従ってもしもロータリークラブでクラブがおもしろくなかったら、それはもう意味ないと思うんですね。国際問題とかいろいろな奉仕活動もありますが、どうでもいいとは言いませんけれども、そんなことよりもまず自分のクラブが本当に魅力のあるクラブなのか。あのクラブに行ったらいいやつがいるよ、おもしろいやつがいるよ、力のあるやつがいるよ、俺も行こうと、こうでなかったら意味がないと思うのであります。

従いましてもしもRI会長の言っていることとクラブ会長の言っていることが違ったら、躊躇なくクラブ会長の言うことをきいてもらいたい。RI会長にはそんな権限はないわけであります。そういう意味で私は今日のこの会議が非常に意義があると思っているところでございます。どうかクラブの会長、幹事さんは自信を持っていいクラブを作ってもらいたいし、自由におやりになっていいんじゃないかなと、そう思うところであります。

今度のボイドさんのテーマは、これはもう関原ガバナーから何回もお聞きでしょうけれども「率先しよう」であります。つまり口でばかり言ってないでやれと、こういうことです。これは私は素晴らしいことだと思います。同時に関原ガバナーのテーマは「真心をもって地域社会に奉仕しよう」と、これも非常に結構なことだなと思います。

ボイドさんが言っております「率先しよう」ということですが、じゃあ何を率先するんだろうということになりますと、それはもう我々はロータリアンでありますからロータリーの奉仕の理想を率先すること、これはもうわかった話です。それじゃあロータリーの根本の目的は一体何なんだということを、何を率先したらいいのかと言うことを今日は皆さんとご一緒に考えてみたいと思うわけでございます。

ロータリーというのは何ですか、何するところですかとよく聞かれて、ロータリーの目的は何ですかと言われて、ズバッとなかなか言う人が少ないし、またなかなか難しいと思います。私は当地区のガバナー月信を関原ガバナーから送っていただいて拝見しておりますが、今月号のガバナー月信で豊田パストガバナーが職業奉仕月間にちなんで非常にいいことを書いておられて、豊田さんは良く勉強していらっしゃるなと思いました。その中で一番私が印象に残ったのはロータリーの一番根本の目的は何なんだと。これはもうはっきりとしておりましてロータリーの綱領に書いてあるのが目的であるわけです。しかもこれは原文ではobject of rotaryとはっきり書かれております。objectというのは目的ですから、ロータリーの目的はこれだと言ってくれればいいんですが、ロータリーの綱領なんて言うしゃれた訳を我々の先輩がするものだから、ちょっとイラっとすることがあります。その辺を豊田さんは目的だと書いておられる。従って豊田さんは良く勉強されたなと思うわけであります。

ロータリーの目的は綱領に書いてあるとおりです。この地区には藤川パストガバナーの様な立派な方がおられて、英語が出来るし国際的な視野がある方がおられるので、こういう人たちにいっぺんロータリーの訳を直してもらいたい

と思います。いいかげんな訳がいっぱいありものですから・・・。ロータリーの本当の憲法というべき綱領が目的ということを言わないで綱領と書いてあるのはあまり良い訳とは思われません。

そんなことで目的である綱領を見てみますと一番最初に四つのことを言ってます。一つは奉仕の機会として知り合いを広めなさい。ロータリークラブは会員を増やせとやかましく言うわけですが、私もその会員増強のゾーンコーディネーターをやらされているんですが、それはロータリーの目的である奉仕をするために集まれというわけであります。人が少ないからクラブが成立しない、食費が出ない・・・。そんなことどうでもいいんでして、それはあくまでも手段であって目的は奉仕活動であります。これは皆さんご存じでしょうけれども、発想を転換してもらって集まって奉仕をすることに意義があるとするならば、集まる時にいろいろ問題があります。たとえば超一流ホテルで飯を食って金がかかると・・・。何人が集まらなければだめだと・・・。大体これが本音のところだと思うんですが・・・。

皆さんご存知かも知れませんが、神奈川の湘南にあるロータリークラブがありまして、ここはロータリークラブの奨学生で外国に行ったりなんかした学生とかそういう人たちで帰ってきた人たちがやっている25名位の若いクラブです。内女性が15名。ここは会費が7万円なんですよ、7万円。金がかからない。これで皆集まってどうするか。集まった者が500円づつ出す。500円出してフランスパンとチーズとワインで済ませちゃうんです。すると金がかからないわけですね。それでいながら結構いろいろな活躍をしてもらって、チャリティか何かをやって6万ドルだったか寄付したわけですね。つまり、発想をがらっと転換してロータリーというのは一流ホテルに行ってうまい飯食って金がかかるって・・・・、それをやめたらいいと思うんです。もしも人が集まらなければですよ。そういう発想の転換をする必要があるのではないでしょうか。つまり目的は何んだということだと思うわけです。

奉仕活動をすることが一番中心だとすると。二番目には皆さんご存じのように企業の倫理を高めようということであります。それが大体目的といえば目的だと思いますね。しからば企業の倫理を高めるにはどうしたらいいのでしょうか。企業の倫理を高めるにはそれこそ藤川さんの講演や説教を聞いていればいいかも知れないし、やり方はいろいろあると思います。だけどロータリアンとしては「四つのテスト」を実行することにあると僕は思うんですね。この「四つのテスト」は fore-way test と書いていますね。foreとwayの間にハイフンが入っているわけです。fore-wayというのは一つの言葉なんです。これは四つ辻ということなんです。one、two、three、foreじゃないんですね。四つ辻に立って右に行こうか左に行こうかという時にこれを考えろというわけです。従って「四つのテスト」というのは十字路のテストと訳しました。その中で一番最初は「真実かどうか」ですね。これからやることは本当だね、嘘じゃないねと、これが第一番です。二つ目は「みんなに公平か」。これが大きな間違いであります。原文ではis it fair to all と書いてあります。自分に関係する全ての人に対してフェアかと言っているわけです。あいつはアンフェアだとか、あのプレイはフェアプレイじゃないとか、あのフェアですよ。このフェアが公平と訳してある。これは私は本当にロータリーの大きな誤訳だと思います。根本のところですからね。要するに真実かどうか、フェアかどうか、そういうことがおそらく一番大事じゃないかと思うわけです。

これは、皆さんご存じの通りハーバー・テーラーという人がこれを作ったわけでありますけれども、1932年、ちょうど世界中が大変な不況だった時、シカゴにアルミニウムプロダクツという会社がありました。これはアルミニウムで食器を作る会社です。その会社が潰れかかった。それが30代の若いハーバー・テーラーという人が再建してくれと言われて乗り込んでみたところが、もうその会社は潰れる寸前だからどうしようもない、工場はばらんばらんだし、金は無いし、従業員のモラルは低下しているし、お得意さんはコンピュータにとられたでしょう。何から手をつけていいかわからない。彼は頭を抱

え込んで、そしてとてもじゃないけどこれは俺は出来ないなと・・・。その時に彼が考えたのが「四つのテスト」であるわけであります。従業員に給料が払えないような会社、明日潰れるかもわからんという時に、真実かどうか、みんなにフェアか、人のためになるか、というのは冗談じゃないと思いますが、おそらくどん底まで行ったらそういうことをやらないことには私は再生出来ないと思います。

私はハーバー・テーラー偉いなと思うのは、そういう経営哲学を考え出したこと。これは素晴らしいと思いますが、もっと素晴らしいことは、その経営哲学を潰れる寸前の会社の社員から役員からお得意さんから銀行から、全部関係する全ての人に実行させたことです。これはなかなかできません。本当に真実かどうか、嘘じゃないね。それをやることによってみんなのためになるね。みんなに喜んでもらえるね。彼はそれを徹底した方であるわけであります。私は更にハーバー・テーラーが偉いなと思うのは、それで大儲けしたことです。やはりお互いにビジネスマンですから会社が潰れたんじゃどうしようもないんです。どんなうまいことを言っても・・・。彼はそれで大儲けをしたわけであります。10年経ったら100万ドルの儲けになったわけです。つまり非常に素晴らしい哲学を作り、それを徹底して実行し、かつ成果があがったと。それが「四つのテスト」であるわけです。従って私どもはロータリーというのは何ですかということになってきた時に、やはりロータリーというのはそういうことをすることが一番大事なことであって、それ以外の奉仕活動はどうでもいいとは言いませんが、二の次、三の次でもいいのではないかと思います。今ぐらい企業の倫理が変なことになっていることはありませんので、こういうことはやはり非常に大事なことじゃないでしょうか。

ただ、この間私どもの2580地区、東京ですが、佐藤千寿さんというううるさいおじさんがいるんですね。この人は教養があって力があって、とてもじゃないが我々が寄ってたかってもどうにもならないような人なのです。この方が大体ロータリーの仕事というのは職業倫理なんだよと他はどうでもいいとはいいませんがそういう感じなんです。この間、ちょうどその佐藤千寿さんの話をお聞きする機会がありまして、職業倫理というけれども、資本と経営が一体だった、あるいは中小企業の社長の場合だったらそれはそれでいい。だけど今やホリエモンだとか、村上ファンドとか、ああいう連中がぱっと株を買っちゃったと。そうすると資本がどっかにいっちゃうわけですね。つまりアメリカ式な資本主義というのはそうでありまして、会社は誰のものだと、株主のものですよ。確かにアメリカの株主総会に行きましたら、社長は株主に「your company」と、あなたの会社という言い方をします。会社は株主のものなんです。株主から社長は任命されて会社を経営する。その社長の一番の目的は大儲けして株主に配当することですね。それさえしてくれれば社長はいくら給料をとってもいいと・・・。おそらく我々が聞いたらぶったまげるような給料を取っていますよ、アメリカの会社の社長は。それはちゃんと儲かって株主にちゃんと配当すればそれでいいわけです。そうなってくると社長はそんな企業の倫理なんかいっていられない。つまり資本と経営とが分離するようなことになってくると、職業奉仕は何かなという問題を提起されて来るわけでありました。ひとつ今後は職業倫理が中心になっていながら、そういうテーマがあるなということだけをちらっと頭に入れておいていただいて、皆さんと勉強して参りたいと思います。

今日はとりあえず第1ラウンド15分のご挨拶でございまして、明日またRIの会長の方針などについて皆さんと一緒に勉強してみたいと思っております。よろしくお願いします。

特別講演「ロータリーと私」

第2530地区パストガバナー
佐原　元氏
（喜多方RC）

佐原元でございます。皆様、ロータリーを楽しんでいらっしゃいますか？またロータリーの活動は自分のためになっておりますか？

我がクラブと私

1956年、喜多方ロータリークラブ（ＲＣ）は日本で188番目、県内５番目に誕生しました。当時、日本国内は４地区で、第60地区（日本東部）のガバナーは新潟ＲＣの伊藤文吉氏、国際ロータリー（ＲＩ）会長はイタリアのジャン・パロオ・ラング氏でした。

当クラブが今年度、創立50周年を迎えるにあたり、私は、これまでの50年の歴史を振り返り、ひもといた時、１枚のセピア色の記念写真を見つけました。それは、「４つのテスト」の考案者で、元ＲＩ会長ハーバード・テーラーとグロリア夫人の笑顔の写真でした。気づいた私も大変驚き、会員一同感動しました。当時、認証伝達式の準備をされた、92才の小林公人会員は、アメリカからＲＩ会長代理として、ご臨席されるご夫妻のために、にわかに手作りの様式トイレを作る等、チャーターナイトの準備にご苦労されたことを、当時を振り返りながら、万感の思いで私共に話されました。50年前、アメリカからどれ程の時間をかけてハーバード・テーラーご夫妻が戦後の東北地方の１クラブの認証式にお出で頂いたかと思うと、ご夫妻のロータリーへの情熱が今、尚、会員一同に伝わり、誠に感無量です。

また、1979～80年度のガバナー私の父、佐原史哉は「出席率が低下し、退会者も出て、会員数は11人まで減少し、解散するか存続するかの瀬戸際に立たされた」とも創立10周年記念誌に書いています。しかし、それにもめげずに、67年には会津坂下ＲＣ、91年には喜多方中央ＲＣを誕生させ、69年には喜多方工業インターアクトクラブ、83年に喜多方ローターアクトクラブを創立。84年に天童ＲＣと姉妹クラブを締結、02年に岩槻中央ＲＣと友好クラブを締結しました。

そして、我がクラブは２名のガバナーを輩出し、２度の地区大会を体験いたしました。青少年交換学生は1971年にオーストラリアからロジャー君を迎えたのに始まり、現在も交換を続けています。ロータリー財団国際親善奨学生を多数派遣し、又、多くの米山奨学生の受け入れも行い、今日まで、大いに国際親善に力を入れて参りました。

50年の歳月が過ぎて行く中、ポール・ハリスの精神を忘れる事なく、我がクラブは脈々と活発に活動しております。ここでもう一度、私共は、原点に返り、ロータリーの歯車を大きく回し続け、世界理解と平和を目指して活動しようと会員一同今、燃えています。

ロータリーのバッジと私

信頼、信用／
長年にわたって培われた、信用の証

私の経験した、ロータリーバッジのエピソードを少々お話しましょう。アメリカの小さな町のホテルのエレベーターで、私の胸のバッジをみつけ、黒人のロータリアンが「どちらから？」と声をかけてくれたのです。「日本からです。」と答えると、「ここはいい町だよ、ゆっくり楽しんで！！」とたった30秒の会話でしたが、ほんのちょっとの気づかいで、とてもいい気分になりました。「友情を大切にする」という姿勢です。ここでも、「親切」と「他を思う」思いやりの心を学びました。バッジをつけていたからの話です。あの時の彼らの笑顔を今も覚えています。

それから翌日、自信を持って元気に町を歩いていると、今度は交差点でどっちへ行ったらいいのか我々日本人三人で地図を見ていると、一人の紳士が私のバッジを見て、「あなたはロータリアンですか？」と。「そうです」と言ったら、じゃあここは小さな町だが、うまいレストラン

があるから連れていってやるよと言って、レストランの玄関口まで案内してくれました。知らない町での好意は格別です。これはロータリーの好意と友情と信頼にほかならないと思いました。

次に、東京のホテルのフロントで、ジャンパーを着たアメリカ人2人が、私の胸のバッジをじーっと眺めていました。何か悪いことでもしたのかと、ハッとしました。私は「Are you a Rotarian？」とたずねると「Yes」と笑顔で返事が返ってきました。もうそこには、何十年来の友と会ったような雰囲気が、ただよっていました。それからは「私はインディアナポリスに住んでいる。6月の世界大会には参加するのですか？もし参加するなら、私の住んでいる町はそこから30分～40分の所なので、もしまだホテルを予約していなかったら、是非俺の家に泊まれ。」と「あなたはお仕事で日本に来られたの？」とたずねると、名古屋と新潟に建設業の仕事で機械のセールスをしているんだ。2週間日本に滞在するんだ」と彼は私に話をしてくれました。そして、また「是非インディアナポリスに来ないか。ホテルを予約してなかったら、我が家のホームステイでいいよ」と再度誘ってくれました。これはやっぱりロータリアンならではの話で、この時ほどロータリアンの親しさ、友情、世界中が友達だと、痛感しました。この楽しいひと時に感謝し、何か満たされた思いになりました。今でも忘れられない思い出です。この時は、たったこれだけのことですが、ロータリアンとして、ロータリーバッジの信頼と信用の偉大さを学びました。

元ＲＩ会長、グレン・Ｅ・エステスＳｒ会長は、ロータリー研究会で、「ロータリーバッジの意味」のお話の中で、全く、私と同じ体験をお話をされたのを覚えております。ルイス・ビンセント・ジアイ元ＲＩ会長のご子息、グスタホ・ジアイさんは、父と二人で東京の街を歩いていたとき、一人の日本人男性が父の胸のロータリーバッジを見つけ、立ち止まって、「あなたはロータリアンですか？」と英語で聞いてきました。父は、「そうです。」と答えました。「ところであなたはロータリアンですか？」と聞くと「はい」と、すぐさま、互いに握手をしました。彼のレストランで昼食まで招待され、すっかり長年の友人のようにもてなしていただいたそうです。このことは私はかつてない経験をしたことのない国際的友情の最も印象的な出来事でした、と、ロータリー同士の信用度合いを知る事が出来た、いい機会でした。7年後にジアイさんは、ＲＩの会長となられたのです。というお話をされ、私が先ほど話をしました、日本版のような気が致しました。ですから、このロータリーのバッジの話は恐らく、世界中で、たくさんあるのだと思います。

もう１つの話は、新幹線の宇都宮から、80歳くらいの紳士が乗車されました。襟元にはロータリーのバッジがありました。何か親しみを感じて、「どうぞ」と隣の席をすすめました。「どちらのロータリークラブですか？」と伺ったら「宇都宮のクラブです」と。「宇都宮クラブは歴史と伝統のクラブですね」とお互いにすぐに打ちとけ、ロータリーの話で盛り上がり、「またお会いしたいですね」と再会を約束するのでした。楽しく、有意義な車中のひとときでした。

次に、私の娘の話で大変恐縮ですが、大学病院でのエピソードです。大変重篤な患者さんなので、患者さんのこれからの治療の件で医療チームが一体となり誠意を持って、いくらこれからの治療について説明しても納得して頂けず、悩んでいるときのことです。たまたま、私の娘が医師として患者さんのご主人に、これからの治療を説明していたとき、ふと、襟元のロータリーのバッジを目にし、「ロータリアンですか？」と自然に何気なく言葉をかけたそうです。すると、患者さんのご主人は笑顔になって「どうしてこのバッジを知ってるの？」「どうして？」と、「父がロータリアンですから」「ロータリー知ってるの？」「はい」「ロータリーで何やってるの？会長やった？」と、「祖父と父は、ガバナーでした」と答えると、ビックリして、「ホントに？どこで？いつ？」と矢つぎ早に質問され、そして、「ロータリーはいいよ！！いいことやってるよ！！」とすっかり打ちとけられたそうです。しかし、娘は、さてさて、いよいよ患者さんの話をどう切り出すか、思案し

て言葉をなくしたとき、「もう解った、解った、若い女医さんを困らせて悪かったね、ごめん。家内が良くなることが一番だ。解ったよ。信用するよ」とこれからの治療を理解して頂き、ロータリーのバッジから、若輩物の一介の女医の私を信用して下さって、ありがたく、涙がこぼれたと私に娘は電話をくれました。「ロータリーのバッジって凄いね！！お父さん、ありがとう！！バッジからロータリアンのご家族に助けられました。」とそのときから、患者さんも家族も笑顔になり、納得して、治療を続けることが出来、全快して、退院されたそうです。ここにも、「信頼」と「信用」がロータリーのバッジに秘められていることに、感動しています。このたった小さな、１つのバッジが、そこには深い深い意味があり、歴史、伝統、そしてそこに培われた偉大なる「信頼」と「信用」が秘められているのです。しかし、ロータリアンの襟元につけられてこそ、ロータリーのバッジは日々ますます輝き、これこそ、私達の誇りです。失うことない輝きに、私は感謝を込めています。

しかし、こんなに楽しい時や嬉しいこと、ありがたいことばかりではなく、ロータリーのバッジをつけていて淋しい思いをしたこともありますので、そのお話をしてみます。「おお、やあ」と手をあげても、ジロリと私のバッジを見て、何の挨拶もなく別れてしまったということもありました。特に、我々日本人は、私も含めてシャイで恥ずかしがり屋な面もあり、もう少し声を掛け合ったら、もっと楽しくなるのにと、残念に思っています。

元ＲＩ会長キングは、ロータリーのバッジを常に付けようじゃないかと、私達当時のガバナーに特に啓蒙していたのです。私もガバナー時代、会員に、大いに呼びかけました。バッジをつけていない会員には、ポケットから出して、そっとつけてあげました。どうぞ、皆さん、ロータリーのバッジを襟に常に付ける運動をしてください。これだけでもすばらしい活動です。これこそが、会員増強の基なのです。このことが、又、ロータリアンとしての自覚と誇りを持つことになり、ロータリーの輪が広がり、楽しさも増し、強いては会員の増強につながるのです。

職業奉仕と私

1905年、ロータリーの世界では職業倫理の考え方はありませんでした。お互いに仲良くして、助け合い、親睦だけの集まりでした。その後、世のためという発想が芽生えて参りました。職業倫理の提唱をするようになったのです。倫理の裏打ちのある企業経営によって、初めて職業が繁盛することになり、世のため、人のためになるのです。今、自分の職業をじっくりと振り返ってみるいいときではないでしょうか。私達は地域社会で、それぞれの職業を通して社会に貢献しています。このそれぞれの職業奉仕こそ、人々が人としての幸せな生活ができる基礎基盤です。健全な職業なくしてロータリー活動はありえません。

我が国は、ついに失業率5%となり、景気低迷などと言って、暢気に構えていられなくなりました。「会社の寿命30年」というベストセラーに、30年間同じ商品で同じようにやっていて繁盛し続けた企業は、一社もないという話がありました。今こそ、このことに気づき、考え、21世紀の新しい創意工夫、つまり新しい遺伝子を組み入れ実行していかなければなりません。時代の流れが早くなりました。バブルがはじけた余震にもう戸惑っている暇はありません。それぞれの苦しみを味わっているのはお互いさまです。しかし、そこから立ち上がりをどうするかにかかっているのです。最近、多少、景気が上向いたとは言ってますが、人は弱く、つい落ち込んでしまいます。私も同じです。私はこんな時だからこそと5年前にガバナーの時、自らにプレッシャーをかけました。前々から地域のみなさん、患者さんから強く要望されていた80床の老健施設を立ち上げました。うまくいくかどうかも全くわかりませんでした。ガバナーの仕事とこの忙しいときに、と思いましたが、しかしこのときこそ職員一丸となって、地域の皆さんに応えるべきと考えました。健全な企業であってこそ、ロータリーの奉仕ができるのです。又、ロータリアンだからこそ健全なる企業、社会奉仕ができるのです。これがロータリアンとしての責務です。今年はまさに－率先しよう－

のテーマです。私はこのテーマのごとく、今こそと、今年も又１つ介護施設、グループホームを立ち上げ、11月には（来月には）完成します。これは、あくまでも地域の皆さん、患者さんへの誠意です。私自身の職業（企業）の倫理観をご紹介しました。

それでは、今私の頭をよぎっている、私の体験した職業倫理、実践のお話をしてみましょう。１つは歴史と伝統の京都の老舗料亭で、女将に「創業はいつですか」と尋ねると、彼女は「私で17代目です。370年続いています。」そして「それはすごい、さすが京都」と私、「続いたその秘訣は？」「それは儲からなかったからです」「それは金儲けしようと思わなかったからでしょう」と、女将は言いました。ここに職業奉仕の原点ありと私は納得致しました。もし本当にジャンジャン儲かっていたら、余計なことに手を出したり、楽をして遊んでしまったり、お客様の手に女将のぬくもりが伝わるような仕事ができなかった、丁寧な仕事はできなかったとつくづくお話されたことを思い出します。私は今も昔も変わらない不易と流行をそこに見、なんと知的に高いボランティア、基準の高い職業訓を学んだ思いをしました。

もう１つは、洋の東西を問わず同じような話ですが、ローマのパン屋さんを思い出します。古い石畳の狭い小路を入ると、香ばしい香り漂う2間間口の小さなパン屋さん。何百年と続いた古い石の家で、おいしいパンをそのときそのときの工夫を凝らして黙々と焼き続けたこだわりと、自信に満ち溢れた笑顔が忘れられません。そして彼は満面の笑みで「おいしい」と喜んでくれるお客様がいて、自分達、家族5人が毎日楽しく食事が取れ、家族みんなで午後のひととき、たっぷりのティータイムがとれれば、それでいいのさ。それ以上何を望むのか？と言うのでした。ここでも我が職業に誇りと自信、地域に貢献の喜びを教えられました。

ガバナー当時、福島のクラブの公式訪問のあと、福島ロータリークラブ会員の長老、安藤錬雄さんの宮大工の展示館「安藤大工道具館」を見せて頂きました。ここにも江戸時代からの、職人としての職業に対する厳しさとこだわり、宮大工の誇り、職人としての哲学を見ました。職人それぞれの身の丈に合った人生、そしてそれぞれの職業は、人として、人生完成への成長のてだて（道具）であると思うのです。どんなに小さくとも自ら誇りを持って、自信を持って世の中に職業を通して役立つ人間になるよう努力し、成長を遂げたのなら、その人の人生最後を迎えるときに、その人は自分の人生に十分満足し「まあ、こんなもんだったが、幸せだった」と、その時のその喜びの笑顔こそ、尊い職業倫理です。そして、東京女子医大の創始者吉岡弥生先生は100年前に「世界に通じる、役立つ医者になれ」と言っています。すべて職業を通して世の中に役に立つこと、このことこそ職業奉仕の理念です。私の母校、岩手医大の創始者三田先生も「誠の医師になれ」と教えています。これこそが、職業倫理そのものです。このお二人の言葉を、医師は決して忘れてはならない、基本の基本です。

私の体験ではなはだ恐縮ですが、私がまだ30代の若い時でした。医師としても人間としてもまだまだ若輩ものでした。私の受け持つ患者さんが深夜、十二指腸潰瘍の出血で、ショック状態となりました。丁度、私の血液型がマッチしたので、私は、看護師と一緒に私の腕から血液を400cc抜き、即座に輸血をしました。一刻を争うときの即座の決断です。運良くすぐに、ショック状態が改善して、家族から感謝されました。ホントに嬉しかったです。また、会津地方の真冬に夜間8時に往診依頼があり、タクシーの運転手さんと二人で出かけました。行く手は吹雪で降る雪にはばまれ、患者さん宅まで4時間かかりました。高年齢の患者さんは肺炎で、重症でした。タクシーの運転手さんと、一度も二度も何度も引き返そうと思いました。しかし、運転手さんも偉かったです。「先生、行けるところまでいきましょう。」とかけつけました。二人とも疲れ果てての帰り道、あの時引き返さなくて良かった、良かったと何度も何度も運転手さんは言ってくれました。彼こそ、自らの職業をきちんと果たしてくれたのです。私こそ感謝でした。翌朝、入院して頂いて命をとりとめました。全く奇跡でした。これも役立つ職業奉仕

と使命感です。

私は、今までお話して参りましたように、又、お話して参りましたことは、全て、理論ではなく、研究に研究を重ねたような哲学でもなく、私と、私の周りのものの、実際に体験してきた、つたない、とるにたらないような、小さな小さな誰でもが日常されている体験の話でございます。しかし、この現実の出来事ほど私は尊い物はない、と思うのです。

私は医師です。私は幸いにも医師の父の背を見て育つことが出来ました。戦争で負傷した片足は、不自由の身でも、雨の日も吹雪の日も往診に出かけ、又、朝も昼もくつろいだ姿など見たことがありませんでした。いつも白衣の父でした。ＮＨＫプロジェクトＸに取り上げられ、映像になった、北海道の霧多布の医師、パストガバナー道下先生の話などは全く医師としての職業倫理そのものの人生ドラマであります。多くの人々に感動を与えたのを皆さんもご存じでしょう。私は、自分の父の姿を見るようでした。（山形のこと）あの映像を見る以前から存じ上げておりましたので、ますます、医師として、ロータリアンとして、ガバナーの大先輩として、常に鏡としております。しかし、皆さんの、どなたのお父上も、皆、昔の方々はそれぞれの職業に誇りを持ち、日々努力し、腕を磨き、地域の為、人々の為、世の中の為、家族の為に働かれたのです。私達はその遺伝子を受け継いでいるのです。理屈や理論ももちろん大切ですが、職業倫理は実践してこそだと思います。その遺伝子が今、日本人の全ての人に入っているはずなのに、なぜか少し違ってきて、ずれてきているのか？と考えざるを得ないことが多すぎる今日この頃です。ＩＴ産業の事件、岐阜県、福島県のこと、飲酒運転のこと等々、悲しい事件がいっぱいです。私達は今、先人に学んだことをどう生かし、何をしなければならないか、あとからついてくる者達の為に（坂村真民の詩）のように私は責任を感ずるのですが、皆さん如何なものでしょうか？

「米山奨学生」と私

「第2530地区ロータリアンの皆様の“やさしさ”に心から感謝しています。福島医大で研究を続けることができる幸せを、今、かみしめて勉強しています。役立つ医師になりたい」と、中国の張玉想さんが私に公式訪問の折（二本松ロータリークラブ）話してくれました。

米山奨学生は日本に留学する学生を対象にした国際奨学生事業です。これは日本のロータリー独自のものでロータリー運動の先駆者、米山梅吉翁を記念して創立され、民間で行っている最大の奨学金制度です。教育、文化、交流に国際的に高い評価を受けています。また奨学生の学費や生活を保証するのみならず、世話クラブカウンセラーが彼等を援護し、日本を理解して頂く努力もしています。どうぞロータリアンの「やさしさ」を続け、その輪を広げ、世界に貢献しましょう。

メーキャップと私

○アメリカ・ポートランドの例会

まず、米国、ポートランド市のロータリークラブへメーキャップしたことから話を進めます。オレゴン州ポートランド市クラブの会員数は70名でした。このクラブのＳＡＡが非常に印象的に活発に活動していたのが忘れられません。例会中、常にＳＡＡが満面の笑顔で何かにと気配りして、例会を取り仕切っておりました。このクラブには会員同士の友情と好意が根底にあり、笑顔が絶えないクラブでした。そこに親睦の理念が生きづいて素晴らしいクラブの雰囲気を作っているのです。

○イギリス・グラスゴーの例会

私は英国グラスゴーに、ボートの世界選手権を応援に出かけたとき、グラスゴー郊外の小さなクラブにメーキャップしました。それはロータリーグラスゴー国際大会の前の年でした。グラスゴーは、有名なクイーンエリザベス号などの造船、鉄鋼、工業などが盛んな町で、シンガーミシンでも有名です。遠来の客として、ゲストの私達を長老の初代会長がすぐさま見つけて、笑顔で迎えてくれました。そして、例会中、始終、私と家内に気遣って心からのもてなしをしてくれました。その長老はグラスゴー大学医学部出身の英国紳士、ぜひともグラスゴー大学を見学していって欲しいと進めてくれました。そのクラブは30名位の小さなクラブですが30数年

の歴史があり、落ち着いた雰囲気のクラブ例会でした。ゲストスピーカーを呼んで、自然環境の問題をスライドを使って説明しておりました。イギリスでは10数年前からこの課題をメインにクラブは勉強しておりました。このクラブはゲスト（お客様）には、必ずクラブの長老がつきっきりで、クラブの説明をしたり、フレンドリーに丁重にもてなすのだそうです。ゲストのもてなし方をちゃんと、決められているのでした。ですから、私共をクラブ１の長老、初代会長さんが、つきっきりで終始、若い方々にも私共に親切にするように指示をしながら、接待してくれたわけです。これも何と麗しい、いい形だなあと思いました。例会のもてなしの心の一例です。

○カナダ・モントリオールの例会

また、2005年、6月、ロータリー100周年シカゴ大会の帰途、カナダ、モントリオールクラブを訪ねました。（モントリオール大学で研究している息子の案内で家内と3人で出席しました。）ここは、世界で88番目に創立された古い伝統あるクラブです。古い重厚なビルの二階での朝の例会でＡM8：30、開会でした。8時頃から三々五々、会員が集まってきて、例会が始まる前に正面横に並べられたバイキング式の（飲み物、パン、ケーキ、ソーセージ、卵等、果物、ヨーグルト等の）ブレックファーストを、各自が全くなごやかに、取り合って、談笑しながら楽しく食事をしていました。そのうち、不思議なくらい自然に会長さんが例会を始め進行していきました。ここでも、私達の接待は、長老ベテラン会長で、私達のテーブルについて、終始、もてなしてくれました。造船の仕事で数回来日していて、日本語も少々でき、日本の実情にも詳しいとても親日的な会員でした。この長老会員は、「一時は、400名も会員がいたクラブだったよ」と言われましたが、しかし、只今、会員数は50名位だそうです。そして長老会員は、「みんな、それぞれ新しいクラブを作って出ていったよ。」と淡々と話してくれました。会員数が減った事等をあまり気にもしないで「クラブライフ」を楽しんでいるようです。その日の例会ではクラブ内のゴルフコンペの成績を発表し、次に保険会社の話を、女性でその道のプロフェッショナルな方の卓話でした。それは、爽やかな朝の例会でした。「クラブライフ」とは「それぞれでいいのです。」とこのクラブから教えられ、身の丈にあった活動でいいのだと学びました。

○アメリカ・ワシントンの例会

次はワシントン郊外の会員30名のクラブです。森の中の静かな所に建つ白い館の落ち着いた例会場でした。集まった順に昼食をとっておりました。「魚」か「肉」の料理が選べます。食事中に会長のスピーチが始まり、私達を手厚く紹介してくれ自己紹介も致しました。ゲストスピーカーは今、米国で悩んでいる時宜を得た課題で薬物乱用防止教育の話題でした。会員皆様、熱心に真剣な顔をして、聞いておられ、質問も多数出て、質疑応答が多く大いに盛り上がっていました。この例会から米国の青少年教育への関心の高さと、青少年教育の重要性を学びました。ロータリーの掲げる青少年プログラムの必要性、その役割の位置づけを私は、ひしひしと感じ、ロータリーの世界性を学びました。幸いにも私共は、ＮＩＨ、米国国立医学研究所へ留学中の親しいドクターがついてくれ、難しい話題もよく、通訳してくれて、非常に興味深く、例会を体験できたからこそ、青少年問題を深く理解出来たことと思います。例会の内容までよく理解できた、いい例です。人と人との交わりは、晴れの日ばかりではなく、雨の日も台風の日も、寒く凍った雪の日もあり、自然のおりなす四季折々に似ております。そして、人との関わりは限りなく続いております。出会う人から、心豊かな温情が伝わり、心の深さが私の胸に刻まれました。数多くのロータリアンとお会いし、肌に感じ、私自身が成長した人生です。今、私は多くの人々とロータリアンとの良き出会いに心より、ただただ、感謝しております。これからもー率先しようーと唱えて歩みます。

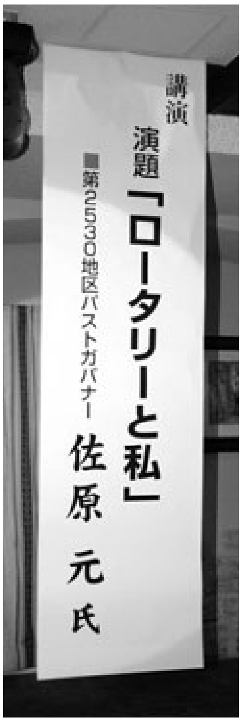
○ドイツ・シュトットガルトの例会

2006年、6月（今年の6月）コペンハーゲン国際大会へ参加の帰途、私共は、医療視察の為、何故シュトットガルトか？それは、私共の喜多方ロータリークラブがスポンサーで、財団奨学

生で送り出したテノール歌手、吉原輝君から、「先生、どうぞ私が財団奨学生としてミラノに留学でき、ここまで育てて頂き、今ドイツでこうして、幸いにもドイツ国歌演奏家資格を取得、音楽家としてシュトットガルトで、活動している姿を見て下さい。そして、ドイツのロータリアンとの交流されるお手伝いをさせて下さい。」と、再三の嬉しいお話を受けていたからです。彼は、自分を育てて下さったロータリーに何か恩返しをしたい、又、彼の奥さんも財団奨学生で、非常にうまくいった例ではないかと思い、常々、財団奨学生の理想の形かと思っていました。そして、現在、音楽学校の講師とソリストとして活躍中で夫妻でシュトットガルトに7年在住です。ドイツと日本の音楽を通して、何か両国の架け橋になりたいと言っています。財団の願うところです。来年の１月には徳島、山形、喜多方と彼と奥さんのゆかりの地で、「ドイツと日本の架け橋」をテーマにコンサートを予定しています。前置きが長くなり、財団の話になってしまいましたが、私のガバナーの時の地区大会でも彼がわざわざ帰国して歌ってくれ、又、財団奨学生として、パネラーもつとめてくれ、非常に私共のクラブへの貢献も大きく、互いにロータリアンと財団学友としてロータリーの啓蒙に良い形で進んでいます。この彼と私と家内で、シュトットガルトのマリオットホテルでの例会に出席しました。丁度この日は、クラブの家族とピクニック例会で、半数の会員はピクニックに出かけ、出席者の少ないことを大変、会長さんは恐縮されていましたが、例会の始まる前に、食事の選択をしていると、会長自ら、メーキャップ料を支払って下さり、「大丈夫、大丈夫、私が払ったから！！」と、にこにこして、食事を勧められました。ここでも、まさに、「遠来の客をもてなす心」が伝わりました。私共のおみやげの品々、バッジやキャンディやetcを、とても喜んで話題も広がり、何しろ吉原輝君がいるので言葉の壁もなく、シュトットガルトはベンツの町なので、「昨日、ベンツ博物館を見学しましたよ。」と話し、出来たばかりの斬新なデザイン、その館自身が芸術的な素晴らしい目を見張る建物でした。私は、日本のロータリアンに、「どうぞ、シュトットガルトに行かれたら是非、ご覧になって下さいとお勧めしますよ」等と話して、ひとときベンツの話になりました。すると、日本のヤナセや三菱自動車や、車のカンパニーの事情にすこぶる詳しく、日独の話題で盛り上がり、会長は「どうぞ、ベンツが欲しい時は、私に言って下さい。そして、ドクター、あなたが又、見に来ればいいのよ！！」と。それもそのはずです。会長は、ベンツの販売会社の元社長、現在役員だったのです。どなたか、ベンツ希望者はいますか？私に言って下さい。喜んでご紹介しますから！！一緒にシュトットガルトへ行きましょう。又、例会後は直前会長の産婦人科の先生と歯科医の先生と数人で、この町はエイズの問題はどうですか？ほとんどいない？生活環境がいい等と話し合っていると、青少年教育では家庭がしっかりしているようでした。そのことから青少年支援の話題になり、青少年交換、あるいは、友好クラブ等はどうですか？とそうした話からいろいろ話題が話題を呼んで、どんどん発展して、一時は話がまとまったかに見えた時、「成田から喜多方までは、どの位かかるのか？」と尋ねられ、ドイツから派遣するには、どれぐらい時間がかかるのかと具体的になった時でした。私は「4、5時間かかる。」と言うと、急に目を丸くして、全員、オーッと叫び「残念だ」と大爆笑！！この話はひとときの夢となったのですが、しかし、ロータリアン同士だからこそ、たった今、出会ったばかりのものでも、これだけ世界の壁もなく、青少年への夢を語り、真剣に日独の青少年問題を、腹を割って話した事は決して無駄では無かった。そして吉原君のロータリーをよく知っている者の通訳だからこそ、と思いました。お互いの友好もますます深まりました。財団奨学生が、こんなところで、こんなに役立ってくれて、私はいつか誰かが、どこかで、奉仕して下さったことが、今、誰かがどこかで助かっているのだと財団の有意義な活動、そして、財団の世の中への貢献を、財団の大切さを肌で感じ、これはこれは、楽しくも誠に有意義な例会メーキャップ体験でした。そして、感動、感激、感謝の三感現象の例会でした

私の体験を話してきましたが、「感動こそロータリー」です。それは「ロータリーの命」です。「感動をなくした民族は滅びる」と言われております。感動から創造が生まれます。その感動がなかったらロータリーも衰退します。「ときめき、わくわく、どきどき、わいわい・・・」私たちは感じながら感性豊かであればロータリーの命は永遠なものです。どうぞ楽しく為になるロータリー活動をして下さい。

ご静聴ありがとうございました。



あの日あの時。第1日目／●地区大会委員会 ●RI会長代理を囲む昼食会

会場／ベルナール酒田

諮問委員会

ベルナール調理長が
昼食の献立を紹介

前川昭一RI会長代理
中曽根真理子様

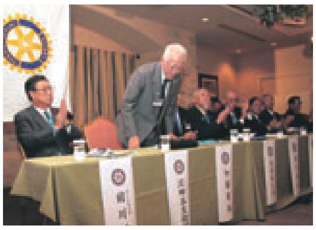
エイド役の野々村政昭PG夫妻と共に

あの日あの時。第1日目／●第1回本会議（会長幹事会）

伊藤三郎地区大会実行委員長
歓迎の挨拶

関原ガバナー開会点鐘

前川昭一RI会長代理を迎えて



石黒慶一登録委員会委員長

豊田義一資格審査委員会委員長

野川桂一選挙委員会委員長

野々村政昭決議委員会委員長

宗雄司地区大会実行副委員長

特別講演

「ロータリーと私」

講師
第2530地区
パストガバナー
佐 原　元氏
（喜多方RC）

あの日あの時。第1日目／●RI会長代理歓迎晩餐会

関原亨司ガバナー挨拶

前川昭一RI会長代理挨拶

濵田五左衛門パストガバナーによる乾杯

小樽南RC／
見延庄三郎様

鹿児島RC／
石井祥会長

小樽南RC／
相馬哲也様

池田美保
酒田RC会員による
アトラクション

あの日あの時。第2日目／●第2回本会議

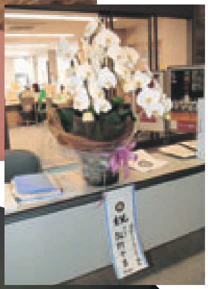
会場／酒田市民会館「希望ホール」

前川昭一RI会長代理入場

ソングリーダー／
池田美保

第3740地区（韓国）からのお客様

関原亨司ガバナー点鐘



伊藤三郎
大会実行委員長挨拶

前川昭一RI会長代理並びにご令嬢

開会宣言／進藤芳明地区大会副幹事

歓迎の挨拶／小幡武久ホストクラブ会長

あの日あの時。第2日目／●第2回本会議

来賓祝辞／日野雅夫　山形県副知事

来賓祝辞／阿部寿一　酒田市長

記念事業発表・贈呈

参加クラブ紹介

司会／
高橋弘哉地区幹事
加藤あきこ

前川昭一RI会長代理現況報告

大会委員会報告・決議案採択

憩いの場

ホストクラブ会員のご夫人たちによる御点前

ロータリーファミリー大集合。

GSE来日団員

青少年交換留学生

インターアクトクラブ

ローターアクトクラブ

国際親善奨学生

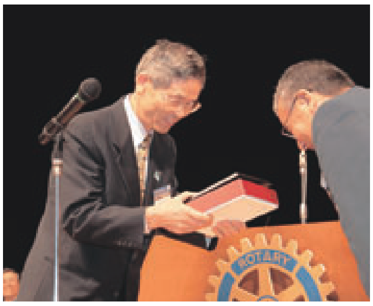
米山奨学生

歓び……各種表彰

ガバナー賞を授与される新庄RC杉山会長

前川RI会長代理へ記念品贈呈

RI会長賞の授与


八十八歳ロータリアン表彰（代理：寒河江RC船田会長）

ポールハリスフェロー表彰

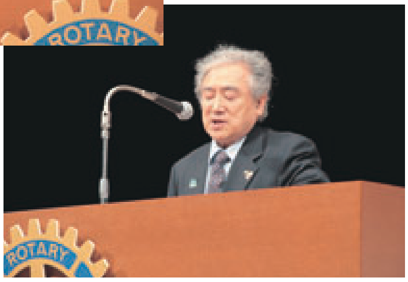
あの日あの時。第2日目／●第3回本会議

前川昭一RI会長代理所感

大友恒則
ガバナーエレクト挨拶

武田和夫
ガバナーノミニー挨拶

関原亨司ガバナー謝辞



水戸部勝幸
地区大会実行副委員長
閉会宣言

石黒慶一直前ガバナーに記念品贈呈

羽生吉弘時期開催地
ホストクラブ会長挨拶

記念講演

小松靖和資金委員長
宗雄司式典部会長
東北公益文科大学訪問

第一部
「公益の源流を歩く」
―ロータリーと公益を考える―

講師：東北公益文科大学 学長
小松 隆二氏

講師紹介
荘内日報論説委員
水戸部浩子

第二部
「景観から見た日本の心」
―景観10年、風景100年、風土1000年―

講師：桐蔭横浜大学工学部教授
造園家　涌井 雅之氏

あの日あの時。第2日目／●会員懇親の夕べ

会場／かんぽの郷酒田「スワンドーム」

関原亨司ガバナー挨拶　石黒慶一直前ガバナーによる乾杯

庄内風みそ味の「いも煮」と
新鮮な「にぎり鮨」でおもてなし

GSE来日団員との記念品交換

池田美保ソングリーダーによる「手に手つないで」

大会日程／2日目　2006年10月14日［土］／酒田市民会館「希望ホール」

8:30　登録受付開始／エントランスロビー

第2回本会議／大ホール

10:00　開　会
司会　地区幹事　高橋　弘哉・加藤あきこ
RI会長代理入場
開会点鐘　ガバナー　関原　亨司
国歌斉唱・山形県民歌「最上川」斉唱
ロータリーソング斉唱「奉仕の理想」
ソングリーダー　池田　美保
物故会員への黙祷　司会
開会宣言　地区大会副幹事　進藤　芳明
大会実行委員長挨拶
地区大会実行委員長
伊藤　三郎
歓迎の挨拶　ホストクラブ会長 小幡　武久
RI会長代理、来賓並びに招待者紹介
ガバナー　関原　亨司

10:25　参加クラブの紹介　司会
ガバナー挨拶及び現況報告
ガバナー　関原　亨司
来賓祝辞　山形県知事　斎藤　弘
酒田市長　阿部　寿一
祝電披露司会　加藤あきこ

11:00　RI会長代理紹介
ガバナー　関原　亨司
RI現況報告並びにご挨拶
RI会長代理　前川　昭一

11:30　大会委員会報告並びに決議採択
登録委員会委員長　石黒　慶一
資格審査委員会委員長　豊田　義一
選挙委員会委員長　野川　桂一
決議委員会委員長　野々村政昭

11:35　大会決議案採択　ガバナー　関原　亨司
記念事業発表及び記念品贈呈
ガバナー　関原　亨司

11:40　R財団国際親善奨学生、米山奨学生、
青少年交換学生、IAC、RAC、
GSE各チームの紹介及び活動報告
青少年交換小委員会委員長
小松　栄一
R財団・奨学金学友小委員会委員長
塚原　初男
米山奨学会委員会委員長　長澤純一郎
R財団・研究グループ交換
小委員会委員長　嶺岸　禮三
新世代、インターアクト
小委員会委員長　佐藤　孝子
新世代ローターアクト
小委員会委員長　佐藤　栄一

12:00　閉会

諸事お知らせ　昼食・休憩

記念講演第一部（一般公開）／大ホール

13:00　開　会　司会
講師紹介　ガバナー　関原　亨司
講師：東北公益文科大学 学長
小松隆二氏
演題：「公益の源流を歩く」
ーロータリーと公益を考えるー

記念講演第二部（一般公開）／大ホール

13:25　開　会　司会
講師紹介　荘内日報論説委員　水戸部浩子
講師：桐蔭横浜大学工学部教授
造園家　涌井雅之氏
演題：「景観から見た日本の心」
景観10年、風景100年、風土1000年ー
謝　辞　ガバナー　関原　亨司

第3回本会議／大ホール

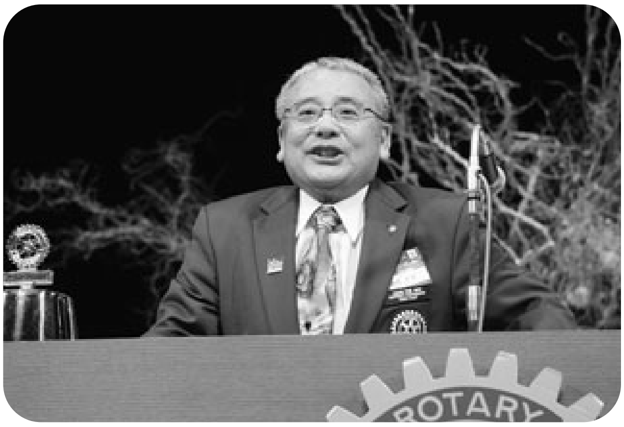
15:00　開　会
表　彰
2005～2006年度ガバナー賞・地区表彰
直前ガバナー　石黒　慶一
ガバナー　関原　亨司
RI会長代理並びに直前ガバナーへの
記念品贈呈　ガバナー　関原　亨司
2007～2008年度ガバナーエレクト・
ガバナーノミニーの紹介
ガバナー　関原　亨司
ガバナーエレクト挨拶
ガバナーエレクト　大友　恒則
ガバナーノミニー挨拶
ガバナーノミニー　武田　和夫
次期開催地紹介　ガバナー　関原　亨司
次期開催地ホストクラブ会長挨拶
米沢中央RC会長 羽生　吉弘
RI会長代理所感　RI会長代理　前川　昭一
ガバナー謝辞　ガバナー　関原　亨司

16:15　閉会宣言　地区大会実行副委員長
水戸部勝幸
閉会点鐘　ガバナー　関原　亨司
閉　会
諸事お知らせ　司会

会員懇親の夕べ／かんぽの郷 スワンドーム

17:30　開　会　司会　加藤あきこ
ガバナー挨拶　ガバナー　関原　亨司
乾　杯　直前ガバナー　石黒　慶一
会員懇親の夕べ会食（アトラクション）
ロータリーソング「手に手をつないで」
ソングリーダー　池田　美保
閉　会　司会　加藤あきこ

ガバナー挨拶



国際ロータリー第2800地区
2006-2007年度ガバナー　関 原　亨 司

それでは一言ご挨拶申し上げます。先ほど我がホストクラブの会長からも話がありましたように、酒田はちょうど季節が最高の時でございます。我が故郷を代表する秀峰鳥海山には二、三日前に初冠雪がありました。それから酒田の最上川河口は日本で一番白鳥の飛来数多い所ということで、その白鳥も第一陣が参っております。そして今日から酒田の中心商店街をメインにした「どんしゃん祭り」が開催されております。どんしゃん（呑舟）というのは皆さんご存知かと思いますが、舟をもひと呑みするくらいの大きい魚ということで、いにしえの酒田の隆盛の頃の歌でございます酒田甚句の中にも『どんどんしゃんしゃんしゃんしゃん酒田はよい湊』というフレーズがございます。そんなことで是非皆さんには酒田の祭りも楽しんでいただければ嬉しいなと感じている次第でございます。

さて皆さんご承知のとおり去年は石黒直前ガバナーの鶴岡で地区大会が開催されました。そして今年は今ここ酒田で開催ということで、この庄内地域で2年続けて地区大会が開催されるということは今までなかったことでございます。これも2800地区のロータリーの歴史の1ページに加えられることかなと思い、大変緊張しつつも嬉しいことだと思っております。

先ほど、RI会長代理の前川さんをご紹介致しましたが、本当にお忙しい中、前川さんのご指導のもとで地区大会が開催されたということは、我々2800地区、2,000有余名の誇りだと思っております。大変ありがたいことだと思っております。

それから本日はご来賓として山形県副知事の日野雅夫様、酒田市長の阿部寿一様、酒田商工会議所会頭の齋藤成徳様、東北公益大学学長の小松隆二様のご臨席をいただいております。本当にこれもありがたいことで、心がつまるほど嬉しさがこみ上げてまいります。また、多数のガバナーご夫妻及びパストガバナーご夫妻の方々、私の所属している酒田ロータリークラブの姉妹クラブであります鹿児島クラブ、それから小樽南クラブの皆様からもお出でいただいております。小樽は今日から地区大会が始まっているそうですが、そちらを抜けてわざわざ私の方に来ていただいたということで本当に恐縮しております。私が逆に札幌に飛んでいきたいような気がいたしております。今朝のニュースでは札幌ではもう初霜があったという報道がなされました。おそらく今日の地区大会も爽やかな中にもピリッと凛とした地区大会が開催されているのかなと思うところでございます。

それからお隣り、韓国の2740地区の金ガバナーほか25名の方が今日お出でになっていただきました。これは私がアメリカの国際協議会の席上で本当に親しくご指導いただいた金さんでございます。それをご縁に何か国際的なプロジェクトを組めないものかということで話し合った結果、今日、大勢お見えになっていただいたということも特筆すべきことだと思います。まずもって本当に韓国の金さん、カムサハムニダ、ありがとうございます。

また、インド3080地区からのGSEの団員の皆様も今日この会場にいらしております。本当に優秀な方々ばかりで、これも国際貢献、あるいは日本とインドの交流の架け橋となることだと思っております。素晴らしい方々ばかりでございます。ありがとうございます。

それからインターアクト、ローターアクト、留学生、奨学生のロータリー家族の皆様、そして先ほどご紹介されました地区内56クラブの皆さん、本当に1,000名を超える多くの会員がご参加いただきまして当地区大会が盛大に開催できましたことは本当に嬉しく感謝申し上げたいと思います。

さて、地区の話を多少させていただきますが、私も今まで何百回となく申し上げましたが、RIボイド会長は「親睦と奉仕を通じて明るい未来をもたらすために120万人のロータリアンが力を合わせて率先していくのです」と呼びかけております。その中で我が2800地区は「地域に根ざした真心の奉仕」とテーマを掲げております。ロータリーの真髄である超我の奉仕、あるいは自己研鑽、利己と利他との調和などを通して、率先して地域に根を張ることが求められているのではなかろうかなと思います。

それから私の公式訪問では本当に皆さんから歓迎をいただきましてありがとうございました。あと残すところ14クラブとなりました。本当におかげさまでございました。これもロータリアンになって良かったなということを実感する訪問になりました。

会員増強の方も本当に皆さんからご努力いただいて、今日現在で48名の純増という報告を皆さんに申し上げたいと思います。小さいことも決して悪いことじゃないんですけれども、大きいことはもっといいことがあるかも知れないということで、この調子で我々の友情を育む大きな輪として友達を増やしていきたいものだと思っております。尚一層ロータリーをエンジョイしながら頑張っていただきたいと思います。そして本地区大会が会員の皆様の研修、親睦、交流を通して有意義で思い出に残る大会になりますよう心から祈念しております。

最後に、本地区大会の開催にあたり、ホストクラブの酒田クラブ、コ・ホストクラブの酒田東、酒田中央、酒田スワン、酒田湊、遊佐、八幡、平田みすみの各ロータリアンの皆さんには本当にご協力ご支援をいただきました。改めて御礼申し上げます。

こんなことで地区大会が順調に推移している喜びを今私は感じているところでございます。以上、御礼を含めてご挨拶申し上げました。大変ありがとうございました。

実行委員長挨拶

酒田ロータリークラブ
地区大会実行委員長
伊藤　三郎

第2800地区ロータリアンの皆様、ようこそお出で下さいました。心から歓迎申し上げます。

酒田市は、山形県の北西部に位置し、最上川が日本海と出会う古くから栄えた港町です。

背後には広大な庄内平野が広がり、冬の季節風は強いものの、対馬海流の影響を受けた温暖湿潤な気候がわが国有数の穀倉地帯を形成しております。秋田との県境にそびえる鳥海山と共に、豊かな自然と長い歴史に育まれた文化を大切にしつつ、重要港湾である酒田港を中心とした交流都市として、順調な発展を続けています。

さて、酒田市民を砂塵と暴風雨から守っている1,404haのクロマツ林は本間光丘、佐藤藤蔵、佐藤太郎ヱ門といった先人達が私財をなげうち、辛労の連続の中で、クロマツを一本一本植え、守って来た人工林です。更に、多くの市民や学生が鳥海山の伏流水、川、海、里山の環境を懸命に守り続けるなど、今でも先人の意志が酒田市民に受け継がれています。国際ロータリーの今年度のテーマである「水、環境保全」を学習するのに最適の場所と自負しています。そして、日本で公益学を学ぶことができる唯一の大学「東北公益文科大学」が設立され、ここ酒田市から「公益の心」が全国に発信されることになりました。

このようなところで、2006 - 07年度国際ロータリー第2800地区「地区大会」が開催され、皆様においでいただくことは、私どもホストクラブは勿論のことコ・ホストクラブ一同嬉しく、誇らしくもあり感謝申し上げる次第です。

本大会が、皆様にとりまして有意義でありますよう心からご祈念申し上げ挨拶とします。

ホストクラブ会長挨拶

酒田ロータリークラブ
会　長
小幡　武久

秋も深まり、鳥海山麓の紅葉も一段と彩色を増して参りましたこの季節に、古くから北前船で栄えた県内唯一の湊町、酒田市において国際ロータリー第2800地区の地区大会が開催されるにあたり、前川昭一RI会長代理のご臨席をはじめ、ご来賓の皆様、そして地区内外のロータリアンの皆々様、そして又姉妹友好クラブであります、鹿児島クラブと小樽南クラブの皆さんをお迎えして、ここに盛大に開催出来ます事は、ホストクラブにとりまして誠に有り難く光栄に存じ、心からの歓迎と感謝を申し上げる次第であります。

ここ新生酒田市は、山形県の庄内平野の北部に位置し、人口約12万人、酒田市の木はケヤキ、花は飛島カンゾウ、鳥はイヌワシ、又東に出羽富士とも言われる2,236メートルの秀峰鳥海山と、西には日本海の海に浮かぶ周囲10.2キロの飛島があり、鳥海山の万年雪が雪解け水となり日向川にそそぎ日本海へ。母なる川、最上川も庄内平野をうるおし、恵まれた自然環境の中で出来た美味しい庄内米を始め、日本海で獲れた旬の海の幸も又大変に美味しいところでございます。

酒田には、1月の酒田寒鱈まつり、5月の酒田山王まつり、8月の酒田港まつり、10月の酒田どんしゃん祭(収穫祭)がございまして、本日14日の地区大会本会議の日がどんしゃん祭りの初日でございます。主会場が町の中心商店街となっておりますので、時間があれば是非お立ち寄りお楽しみいただければ幸いです。

さて、2006年～2007年度国際ロータリー ウイリアムB･ボイドRI会長は『率先しよう(Lead The Way)』をテーマに掲げております。又、それを受けて、2800地区関原ガバナーは、地区目標を『率先しよう、地域に根差した真心の奉仕』と設定、地区内クラブに提唱されております。

今日の地区大会が真の親睦と友情を深め、又、今地域で何を求められ、何を必要としているかを良くみきわめて、何をすべきか真の奉仕とは何かを考える、大変に良い機会であると思います。

『率先しよう、地域に根差した真心の奉仕』を、皆さんの各クラブから是非発信しようではありませんか。

終わりに、参加ロータリアンにとって少しでも実りの多い良き大会となります様、ご期待申し上げ歓迎のご挨拶とさせて頂きます。皆さん、本日は誠に有難うございました。

祝　辞

山形県知事
齋藤　弘 氏
代理 山形県副知事
日野 雅夫 氏

国際ロータリー第2800地区2006～2007年度地区大会が、ここ酒田市において盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

皆様におかれましては、ロータリーの精神に基づき、人類普遍の友愛と奉仕を掲げ、国家、地域を越えて、国際理解の増進と地域社会の発展に多大なる貢献をされてこられました。日頃の御尽力に対しまして、心から敬意を表する次第であります。

今日、人口減少社会の本格的到来やグローバル化の進展など、時代は大きな「転換·変革」の時期を迎えております。このような中、皆様の活動はこれからの地域づくりにとって誠に意義深く、大きな役割を担っていくものと考えております。

県におきましては「子ども夢未来宣言」を副題とした「やまがた総合発展計画」を策定し、県民の皆様とともに、やまがたの“新しい時代”を創造し、子どもたちの世代が夢を持てる、新しい“やまがたの未来”の実現に向けて、全力を尽くしております。

皆様におかれましても、地域社会のリーダーとして「未来に広がる“やまがた”」を創り上げるため、引き続き積極的な活動を展開されますことを御期待申し上げます。

最後に、今大会の実り多い成果と国際ロータリー第2800地区の今後益々の御発展と、会員の皆様の御健勝、御活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝　辞

酒田市長
阿部 寿一 氏

国際ロータリー第2800地区 2006～2007年度地区大会の開催誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

本日、県内各地から大勢の皆様が本市においでいただきましたことに、酒田市民を代表して心から歓迎を申し上げますとともに、公益の故郷と言われるこの酒田の地において、このように盛大に大会が開催されますことは、本市においても大変名誉なことであり、心から感謝申し上げます。

アメリカ·シカゴでロータリークラブが創立して以来、実業人や専門職業人の皆様により、志を同じくするクラブが各地に広がり、奉仕の理想を求めた数多くの社会奉仕活動を続けてこられました。

国際ロータリー第2800地区の各ロータリークラブの皆様におかれましても、青少年の健全育成や社会福祉、さらには国際親善など、多方面にわたり人づくり·環境づくりのためにご尽力いただいておりますことに、深く敬意を表します。

21世紀は「人·こころ」本位の公益の時代と言われております。皆様は、一貫して公益の理念を実践してこられましたが、この度の大会を契機に、さらに会員皆様の融和と結束を強められ、益々ご活躍されますことを確信しております。

結びに、国際ロータリークラブ第2800地区関原ガバナー様、伊藤実行委員長様はじめご参会の皆様方のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げお祝いの言葉といたします。

RI会長代理挨拶

国際ロータリー会長代理 **前川 昭一** 氏

皆さんこんにちは。今回12日の夜にこちらに参りましてから毎晩、毎昼、歓迎晩餐会と、私はご馳走をいただきに来たのかなと思うくらい大変な歓迎を受けておりまして、心から厚く御礼を申し上げます。私の場合は家内がおりませんので今回も娘を連れて参りました。ロータリークラブのガバナーというのはどうもカップルで動くものですから・・・。もともとガバナーにノミネートされますとアメリカへ呼ばれて一週間前後、10日間ほど缶詰で教育を受けるわけでありますが、その時に東京のガバナーというのは替わりばんこに議長をやるわけでありまして、議長のワイフというのはそのガバナー会の奥様方のお世話をするということになっております。そんなことで嫌がる娘を連れて行きまして、爾来非常に同期のガバナーの奥様方とも仲良くしていただいております。そんなことで今回も娘ともども大変なお世話になっておりますことに最初に厚く御礼を申し上げます。

さて、今年のビル·ボイドさんのテーマは、既に関原ガバナーから何回もお聞きでしょうけれども、「率先しよう」というテーマであります。じゃあ何を率先したらいいのか。ビル·ボイドさんの話によりますと、まずロータリークラブのクラブ、ロータリアン、それが充実してほしい、こう言っているわけであります。それから昨日、会長幹事、地区の委員長さん、あるいはこの地区のパストガバナーをはじめこの地区の一番の幹部の方の会議がございまして私はお話申し上げたんですけれども、この中で一番偉いのは誰だと思いますかと。それは、ガバナーがいるんだからガバナーが一番偉いんだろうと思うでしょうけれども、一番偉いのはクラブの会長さんだと私は申し上げたわけであります。ロータリークラブというのはRI会長も我々一兵卒も同じレベルであります。どっちが偉いということはありません。職責の偉い人はいるかもしれませんけれども。従いまして我々ロータリークラブというのはクラブが中心であります。そのクラブは何かというとロータリアン自身が一人ひとりが中心であるからであります。従って昨日も申し上げましたが、もしもRI会長の言うこととクラブの会長の言うことが違っていたら、文句なくクラブ会長の言うことを聞いてもらいたいということになります。クラブが中心なんです。そういう点では私はちょうど2002年-03年の時のガバナーでしたが、その時のRI会長がビチャイ・ラタクルさんでした。おそらく皆さんご存知だと思いますが、久しぶりにアジアから出た素晴らしいガバナーでした。私はおそらく10年にいっぺん出るか出ないかという逸材だろうと思います。大変な人です。このビチャイ・ラタクルさんがおっしゃったテーマは「慈愛の種を播きましょう」でした。やはり非常に東洋の方らしい東洋の哲学といいますか、宗教といいますか、そういう深い思想に根ざしたテーマだろうと思うわけであります。その前後にビチャイさんのような深い思想のRI会長は出ておりませんね。しかもそのビチャイさんが言うのは、慈愛の種を播くのに順序があるぞと・・・。まずクラブであるぞと・・・。自分のクラブがちゃんとしてなかったら全く意味がない。これがロータリーの原点であります。その次に自分の職場に慈愛の種を播け。これはロータリークラブが職業倫理を尊ぶということが一番の仕事である以上は当たり前だと思います。その私どもが尊敬するビチャイさんが言う三番目が地域社会に慈愛の種を野心的に播けということです。これは今のボイドさんがおっしゃるように、まずクラブを充実してくれと。それを率先して欲しいんだと、そういうことの中心とよく似ているわけでありまして、私はそういう点ではビル・ボイドさんの話もまったくだなと思って聞いて

いるわけであります。

今日はそんなわけでクラブの充実を図るためにはどうしたらいいのかということをお話したいと思います。ビル·ボイドさんの言うところの「率先しよう」とは、まずクラブの充実であると・・・。ではそのクラブの充実のためにはどんなことがいいんでしょうか。これはさっき申しましたようにRIの会長でもなければ、ましていわんや会長代理なんかどうでもいいんでして、クラブの皆さん方がお決めになってどうしようかということを決めていただければよろしいわけであります。

最近、RIの方でクラブリーダーシップなんていうのを作っていろいろなことを言っておりますが、クラブリーダーシッププランというのも、これは提案するだけであって、やるかやらないかはクラブで決めればいいんです。この前、地区のガバナー補佐が出来ました。地区リーダーシッププランです。これはガバナーというのは非常に忙しいから、あちこちのクラブを公式訪問しているとそれだけで疲れちゃう。従ってガバナー補佐にクラブの協議会をやってもらい、ガバナーはその報告を聞く。そして空いた時間でガバナーはガバナーらしい仕事をやれというのが地区リーダーシッププランでした。今度皆さん方がやれと言われておりますクラブリーダーシッププランはその延長線上であります。私はちょうど2002年-03年の時のガバナーになったわけですが、それまでは慣らし運転で良かったんですね。ただ、いつまでも慣らし運転じゃだめで今年からちゃんとやれと半強制されて2002年-03年から地区リーダーシッププランが出来たんですが、今度のクラブリーダーシッププランはいつまでにやれと、あるいは強制するということはないようです。つまりあくまでも皆さん方がクラブで何をやろうかということを決めて下さいと。それはもう地域によって違いますし、クラブの歴史によっても違いますし、いろいろ違うと思います。そこはひとつクラブの会長さんを中心として何をやったらいいかということを考えて実践していただきたいと思うわけであります。

そこでひとつのテーマ、何をしたらいいかということのひとつのサンプルみたいなこと、お考えいただく基準になるようなことをひとつふたつお話ししてみたいと思います。ひとつはクラブの中で青少年育成を考えて欲しいということです。もうひとつは私どもが前から東京の二つの地区が一生懸命やっておりますバギオ基金というのがありして、それをご報告して皆さんのご参考にしてもらいたいと思います。

さっき申しましたように私どもの2002年のガバナーが曰く、あくまでも大事なことはクラブだよ、それから職場だよ、それをベースにした上で三番目に地域社会に野心的に播けと、こういうわけですね。これは地域社会に野心的に播けということは、ロータリーの言葉では社会奉仕であります。ところがロータリークラブというのは社会奉仕は大体ろくなことしていないようです。というと社会奉仕委員長にお叱りを受けますが、私が言いたいのはロータリークラブくらい有能で有力な人材が日本に10万人いるんですが、こんな有力な地域社会のリーダーばかりがおられて、しかもそれを奉仕で集まっている団体というのは他にはありません。それにしてはろくなことをしていないなと思うわけです。私どものクラブを含めて・・・。しかし、私はそれで良いと思っています。何となればロータリークラブというのは奉仕という外向きの仕事をするために作っていないわけです。ビチャイさんが言うように我々はみな企業人ですから、ビジネスマンですから。今くらいビジネスの倫理、企業の倫理が落ちている時はないわけで、この企業倫理を高めようというのが我々の仕事であるはずであります。従って私どもとしては一番の大事なテーマとしては企業倫理を高めることです。これはおそらく皆さんお一人おひとりが会社へ帰れば何十人、何百人、何千人の部下を持っているわけでしょう。お金もあるでしょう。何かやろうと思ったら出来ますよね。ロータリーは事務局のお嬢さん一人でしょう。お金がないでしょう。何が出来ますか。大したことが出来ないのは当たり前なんですよ。大事なことは我々が企業の倫理を高めるということが大事だと思うわけであります。ところがそんな状態で我々の尊敬するビチャイさんから「野心

的に播け」と。

私ども同期のガバナーが集まりましてどうしようかと、これはなかなかロータリーで社会奉仕をやることは大変だと。その時に私どもが考えたのは日本の教育問題を手伝おうじゃないかという非常に大きなテーマであります。だけどもロータリーならば出来る・・・。というのはロータリーの一番の財産は人材です。豊富な人材がおります。例えば、ちょうどその2002年の時に総理大臣の諮問機関で教育改革国民会議というのが出来ました。日本の教育を根本的に変えようというわけです。これは26名の偉い人が集まりまして、それも決して自民党であるとか文部科学省なんかの御用学者とか御用評論家でなくて、ちょっとこの人が来たらまとまらないんじゃないかなというような人も入ってみたりで、もうわんわん言ってたんです。座長は江崎玲於奈さんというノーベル物理学賞もらった偉い先生ですね。その先生は学者ですからわいわい言う人をなかなかまとめることができない。結局、聞いてみたらそれをまとめたのは副主査である牛尾治朗さんだったんですね。牛尾治朗というのは我々の仲間ですよ。私のガバナーだった地区の一期後で東京クラブの会長もやってくれました。彼が実は日本の教育をどうしようかということをまとめたわけであります。改めて私は彼とゆっくり飯を食いながら日本の教育の問題についていろいろなことをお聞きしましたが、非常に参考になりました。

いずれにしても我々ロータリーの一番の特色は豊富な人材がいるということであります。今度、安倍さんが総理になられて教育再生ということを非常に大きなテーマにしておられますが、これは私は非常に良いことだと思います。しかし、これは実際に見てみなくては分からないわけです。前の小泉さんの場合は米百俵とかうまいこと言っていましたが、教育問題はあまりやらなかったですね。私が一番心配しているのは学校の先生の給与なんです。小中学校は義務教育ですから、これは国が責任をもって小中学校の教育をします。そのために先生方の給与も半分は国が出していたわけです。ところがそれを今度は改革だということで国から地方へ行きましたね。その地方へ行って先生の給料が特定財源としてちゃんと給料を先生に出せよというんじゃなくて一般財源ですね。この場に副知事さんおられるからちょっと言いにくいんですが、これは果たして先生にその給与が行くんでしょうか。かつて田中角栄総理の時、奥野誠亮という文部大臣がいました。この文部大臣が教育というのは結局は先生と生徒なんだと・・・。そのためには良い先生を連れてくるよりしょうがない。私もそう思います。それではその良い先生をどうやって連れてくるんでしょう。きわめて文部省は無力で、せめて出来るのは給料を上げるよりしょうがないのです。それでかつて人材確保法案というのが出来て、それで学校の先生の給料が一般の公務員より上がったわけですね。そういうふうにやはり教育の一番大事なことは良い先生を集めることであって、その先生を集めるというのはとりあえず給料しかないんじゃないかなと思います。その人確法もどんどん崩れて来まして、確かに国の財政が苦しいからかも知れませんが、本当に日本の将来を考えてみたら教育にしっかり力を入れてくれないと百年の大系は難しいんじゃないでしょうか。このまま日本が世の中がどう変わろうとも後々の日本というのは資源のない国であります。外国から原材料を輸入する、エネルギーも買う、そしてその8億トンの原材料とエネルギーで世界中のどこよりも安くてどこよりも性能の良いものを作って、それを外国へ高く売りつけて利幅で儲けているわけです。日本の経済はこれしかない。日本の政治機構がどう変わろうと・・・。その中で一番安く作るところは既に日本から逃げて行きました。私どもの会社は機械メーカーですけれども、ほとんど外国で作るということが多いのです。メキシコ、ブラジルとか、それはもうそういうコストの安いところで作らなきゃ生きていけないのです。だけど本当の良いものは日本でしか作れない。ということになれば安いものじゃなくて良いものを作るよりしょうがないでしょう。ものを作るとなったら人づくりですね。そういう意味では私は教育の問題も大事であって、従って私ども同期のガバナーが集まって教育を手伝おうということになったわけです。

ロータリークラブには、今申し上げましたように豊富な人材がいるわけで、何をしたかといいますと、要するにロータリークラブの中から学校へ講師を派遣しようということ。もうひとつは職場体験をしてもらおうということ。そのふたつをやろうということになったのです。これはロータリークラブならば出来るわけです。金もいらないわけです。従って私どもは同期のガバナーと相談しましてリストを作りました。こういう人がこういう講演をしますよ、こういう人がこういう職場体験をさせますよと、リストを作って学校へ持っていったわけです。学校へ持っていったところが、どうも学校の先生方なり教育委員会の人たちは、教育というのは聖域だからロータリーなんか放っておいてくれとは言わないが、冷たかったというんですね。本当に地域社会の立派な方がやろうとおっしゃっているのに学校はけしからん。これは文部大臣に会ってしっかり話して来いと・・・・。たまたま私は東京にいるものですから文部大臣に会いに行きまして話をしたんです。大臣はすっかり喜んでこれはぜひやりましょうと言ってくれて、爾来、ロータリークラブのガバナー会の事務局と初等中等教育局の児童生徒課と組んで常に情報交換をしてやっているわけであります。

もうひとつは、東京には石原慎太郎さんという荒っぽい知事がおりまして、大臣の言うことなんか聞かないんです。これは是非ひとつ知事に会って来いということで、知事に会ってみたら石原さんは本当に良いことだとなったのです。彼は心の東京革命というのをやっていまして、そういうやかましいことを言っているのはぴったりロータリーと一緒だと、やりましょうと・・・。やりましょうってあなたそういうけれども、下の方の市町村長に行ったけれどそっぽを向いているんだから、それをしっかり言わせてくれということを言ってきまして、都の方でもそのつもりでやってくれているわけであります。しかしこれは実際はなかなか思うとおりに進みませんが・・・。地域のロータリークラブのガバナー会としても正式に青少年育成委員会という会があるわけです。ガバナー会に二つの正式な委員会がありまして、ひとつは青少年交換、ひとつは青少年育成、これはもうガバナー会に委ねられた二つの委員会ですから、是非ご協力願いたいと思っているところです。

去年、文部科学省は中学の2年生の子供に1年間に5日間職場体験をさせようと決めました。これはまさに我々が言っている、5年前にロータリークラブの我々が提唱して大臣と話をしてやりましょうと言ったことについてやっと文部科学省が動いたわけです。去年確か5億円だか9億円だかわずか予算を付けましが、やはり役所が予算を付けるということはやる気ですね。これはボイドさんがおっしゃっているような、また同時に皆さんが言っておられる地域に本当に根ざした、本当の地域のニーズを吸い上げた奉仕活動をやろうということと全く同じことだと思いますので、是非これを参考にしていただきたいと思うわけであります。

さっき申しました教育改革国民会議というのもありますが、ただ勉強せい、勉強せい、そして一流大学へ入れ、そのためには塾へ行けと、今はもうそういう時代じゃないと思います。私どもは企業の経営者ですが、良い大学の良い学部を出たやつを偉くしようなんて思ったことはありません。やはり仕事の出来る、もちろん学生だから勉強ができないやつ、教養のないやつはだめですが・・・。しかし学歴だとかどこの学校だとかは関係ないと思います。それよりもっと大事なことが教育にはあるんじゃないでしょうか。

先ほど、関原ガバナーがおっしゃっていました和敬塾というのがございまして、私から申し上げにくいんですが、少しそのへんの考え方を申してみたいと思います。これは50年前に私どもの創業者が作った学生寮で財団法人であります。ちょうど50年前というと、これから日本がいよいよ復興しようという時期に向かった時に、今から若い連中に日本を復興してもらうんだが、こいつらにまかせていいのかな・・・。特に大学生を見ていると日本の大学教育はこんなことでいいのかなという危機感をその和敬塾の創始者は思ったわけであります。では何に比べて日本の大学はおかしいんだと・・・。彼はやはりケンブリッジやオックスフォードというイギリ

スの大学から見てそうだなと言ったわけであります。今はだいぶ様子変わっていますが、その当時のケンブリッジの例を見てみますと、川の側にカレッジが35あるわけです。そのカレッジは何だというと寮なんです。ドミトリーといいますが、その寮に学生が皆入ります。その寮に入った学生たちは、カレッジの学長、副学長、先生、チューター、そういう人と一緒の生活をするのです。そこでイギリスジェントルマン、英国紳士が出来るわけです。そこでは勉強は二の次であって、一番大事なことは人間教育だというわけです。しかも、今はちょっと違いますが、その当時はパブリックスクールという高等学校を出た人しか入れなかった。これもいかにもイギリス的な貴族主義ですが、パブリックスクールへ入って、これまた全寮制でスパルタ教育もいいところなんですね。その寮へ入ったら寮から出られないのです。年に2回しか出られない。後は出られない。しかも午前中は勉強をして、午後は運動と軍事教練。軍事教練はオプションですが、その軍事教練をやっておけばもれなく陸軍少尉に任官できる。これはパブリックスクールという名前ですが、本当はプライベートなスクールで私立学校なんですね。私立学校で陸軍少尉になるというのもおかしいんですが、これはイギリス的ですね。いずれにしてもそういう徹底した人間形成といいますか、そうして、その陸軍少尉殿が大学へ入ってまた寮生活をやるわけです。そういうふうに勉強とか、知識偏重とかじゃなくてもっと大事なことがありますよというわけです。そういうことを比べてみると日本の大学というのは勉強さえすればいいと、もっと言えば学歴さえつけばいいと、そんなことじゃしょうがないじゃないかというのが創設者の目的だったわけであります。

おかげさまで和敬塾も50年経ちました。これは決して社会的地位の高い人を養成しようという松下政経塾じゃありませんので、偉くなったやつもいるし全然偉くならないやつもいる、それでいいと思っているんです。我々は偉い人じゃなくて立派な人を作りたいと思っているわけでして、そんなことを教育の原点に考えていきたいなと思っておるところであります。

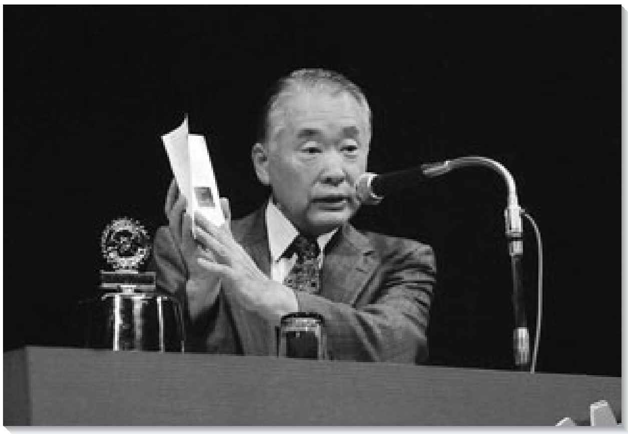
時間がありませんからはしょってお話しましが、是非日本の教育がただ勉強だけじゃなくて、もっと大事なことがあるんだということを併せて皆さんにお考えいただいて、出来ればガバナーに地域社会の本当のニーズ、それを吸い上げてもらって、ロータリークラブらしい奉仕活動、豊富な人材を駆使した奉仕活動をして欲しいなと思うわけであります。要するに率先してやろうということはロータリアンでしかできないこと、ロータリーがやるべきこと、そういうことをいっぺん洗いなおしてみて、よそのやっていることは放っておいて本当に我々しかできない、豊富な人材をベースにした奉仕活動、そういうことをやってもらったらいいんじゃないかなと思っているのです。それがおそらくボイドさんの率先しようということになるし、関原ガバナーのテーマにも合うんじゃないかなと、そう考えるところでございます。

ご静聴ありがとうございました。

記念講演／第1部

公益の源流を歩く

―ロータリーと公益を考える―



東北公益文科大学学長 小 松 隆 二 氏

皆さんこんにちは。まず国際ロータリー地区大会開催おめでとうございます。昨日から、今日も朝早くから長時間お疲れでもあるかと思います。時間が大変限られておりますが、酒田のこと、庄内を中心に話をさせていただきたいと思います。ただ、庄内の皆様には「なんだもう、そんな話何度も聞いたよ」ということになるかと思いますがお許しいただきたいと思います。

ただいま関原ガバナーからもお話がありましたが、私どもの大学はロータリーの皆様には親しくどころかむしろご指導を受けている立場であります。ロータリーの理念、これはまさに公益であります。私どもがむしろ教えていただいているということであります。先程も大変大きなご寄付をいただきました。皆様のお手元にある小さなパンフレット。これは出来たてであります。これの裏に協賛として「2006 - 2007年度国際ロータリー」と書いてあります。さらにこの裏に小さくですが「ロータリーのおかげで刊行されました」と小さく書いてあります。この小さなサイズのパンフレットをポケットに入れながらぜひ散歩して公益を見たり考えたりしていただきたいという趣旨でございます。今日は時間が十分ありませんので、後ほどこれを見ていただければ大変ありがたいというふうに考えております。

このところ、東北、北海道を先頭にまちづくりということが大変関心を集めています。それに併せてその土台になる地域とか公益ということも大変に関心を集めております。これは何でかというと、市町村合併もありましたが、やはり日本の経済、企業の大きな発展、それに対して国民の生活がどうなのか。特に住宅とか住宅街を見たらどうも経済の発展に追いついていないのではないかという不満がだんだん大きくなって来ています。私どもが外国に行くと、場合によってはアジアに行ってもちょっとした住宅街を見ると日本よりも良いと感じることもあります。欧米に行って日本人がとてもかなわないと思うのは経済ではありません。住宅、住宅街なんです。どうも日本には本物のまちづくりがなかったのではないか。あったのは持ち家づくりだけじゃないかと。一軒一軒はどの国にも負けない立派な家が沢山あっても、高級住宅街でも、街のバランスがとれていない。世界では欧米では汚いと思うものが日本人には汚いと思われていない。高級住宅街に電線、電柱、看板がいっぱいあったり、テレビのアンテナがもう連立している、それを汚いと思っていないんです。今、良い住宅街は日本でもテレビのアンテナは見えないところに置きましょうということでみんな協定を結んでやり出しています。そういうものを日本人は汚いと思っていない、当たり前だと思っている。実際の話ですが、高校生にイギリスの住宅街の写真を見せました。「あれ、イギリスというのは大変遅れているんですね」と言いました。もう皆さんピンとくると思います。イギリスは電気がないんだと、電線、電柱がないと、本当なんです。そういう回答があった。ああよく見ているという具合に、もう高校生、若者にとっても住宅街というのは看板だらけでテレビのアンテナだらけで電線電柱だらけ。せっかくのきれいな酒田の街路樹も台無しと、これが日本のまちづくりでした。市民が主役にならない、本物のまちづくりでなくて、どうも偏った専門家にまかせてきたことを反省し、市民が主役になる、若者も含めてそういうまちづくりをしようじゃないかということで北海道、東北は大変がんばっております。

この庄内というのはありがたいことに400年前の平野づくり、村づくり、まちづくりの最初か

ら公益性が大変考えられたまちづくりでやってきている。先程からクロマツ林の話し等が出ておりますが、あれもまちづくりの一端で、むしろ出発点である。そういったものを見ても自分たちの家を守るとか、作るという発想を超えたものが早くからありました。庄内を我々は「公益のふるさと」と呼んでおりますが、あるいはここに「公益の源流」と書いておりますが、その通りなんだということであります。

いきなり話が飛ぶようですが、今日は経営者の方が多いので、おそらく庄内、山形だけではないんですけれども、とりわけ顕著なのがこの庄内、山形です。もう江戸時代から、その後も経営者は経済活動、営利活動を超える目標を持っていたということ。経済活動で終わりではない、営利一筋ではなかったということであります。その先に常に公益ということを考えていました。庄内の方はよくご存じですが、日本一の大地主本間様、三代目光丘は中興の祖と言われています。ここに書いてあります。その人以来、家憲を作りました。家訓とは別に家憲、家の憲法。家憲の第三項第三条がなんと公益の文字が入っているんです。公益の理念が唱われている。はるか昔から本間家では公益の文字が厳然と使われていたのです。

それから私は今年の入学式でも紹介したんですが、ひとつの地域で代表的なまち、酒田、鶴岡、このまちのセンターに公益の碑が屹立している、そんなまちは全国にないですよ。鶴岡のお城の跡、巨大な石碑が建っています。明治31年に建てられたもので、地域の農業や産業のリーダー平田安吉さん、その息子さんは野球で有名で平田杯なんていうのが庄内にありますが、平田杯80年目とか言っておりますが、その平田さんの碑、明治31年に建てられたその碑になんと公益の文字が４カ所入っています。日本で最も古い公益の碑であり、最もひとつの碑にたくさん公益をもられた碑が鶴岡の真ん中にある。酒田にも日和山公園に大きな碑があります。一番目立つ碑が。その二つにはちゃんと公益の文字が入っています。このパンフレットの裏表紙で紹介している荒木彦助さんは商工会議所の会頭等をやった人ですが、あるいはもう１人、消防組頭、消防の近代化に貢献して、近代化された酒田の消防の初代組頭であった白崎良弥さんの碑にも公益の文字が入っている。明治、大正、昭和、戦前から庄内の主要なまちの中心には公益の碑は厳然と建っていたのです。

公益大学が出来ました。公益大学の周りにも公益の碑が二つ、しかも松林を称える、公益を称える碑もちゃんと古くからあったということが分かりました。こんな地域は他にないと思います。まちの真ん中に戦前から公益の碑が厳然と建っている。その碑が酒田、庄内を守って来ているということだと思います。しかも郊外に行くとこのパンフレットに出ていない碑を含めて公益の碑は結構あります。学生も見つけました。そういうまちが酒田であり、庄内であるということで、私どもそういう公益の先輩たちが公益大学を呼んでくれたんだと思います。

公益大学が来たおかげで公益がいろいろ発見されました。公益大学の発足の年には公益大学の近くに朽ちかけていた公益の碑を若い先生が発見しました。鶴岡で大学院が開学される昨年、その鶴岡のお城跡にある石碑、大きな碑で皆それはどういう碑か分かっていましたが、そこに公益の文字が4カ所あるというのは誰も注意していませんでした。それを見つけたのがやはり公益大学の先生です。公益の碑がこんなところにあると。やはり先祖が公益大学を呼んでくれて、公益大学の関係者に次から次へ公益の碑を発見させているということを感じたわけであります。

それと本間家だけではありません。明治以降も経営者というのは、今のように経済活動はもちろん一番大事ですが、そこで終わらないんだと・・・。その先に公益活動をするのが当たり前だというのが庄内の経営者でした。家訓等に公益ないしは公益にあたるものを必ず盛り込んでいました。家訓、家憲には営利なんて殆ど書いていない。徳、思いやり、そういったことが書いてあったのが庄内の経営者の在り方であったんだと思います。

クロマツ林を見ても、400年前から続いている堰、用水路を見ても、庄内の場合はお金持ちが作って、それを自分たちで独り占めするのではない。そこがアジアの諸国とも歴史を見ると違

います。藩主がひいた用水路でも地主が引いた用水路でも全ての人、小作人も含めて水を公平に撒く。それが庄内の在り方でした。ここに書いてありますが、我々が言うのではないのです。専門の研究者も戦前から農業倉庫の公益性を初めて唱ったのは庄内の倉庫だということをはっきり書いてあります。それを引用してあります。我々が言うなら、公益大学の皆さん勝手に我田引水、適当にうまいことを言っているなと思われそうでありますが、ちゃんと東京の立派な先生方が言って来ているのです。そういう先輩たちもちゃんと庄内というのは公益の源流、それにふさわしいということを評価しているということであります。そんなことを受けまして県庁も公益のふるさとづくりとか、公益の森づくりということを政策に取り上げていただいているということであります。

そういうことを振り返ってみると昔から公益ということで言ったりやって来たりしたこと、本間家がやって来たりしたこともロータリーの精神と同じなんですね。本物のまちづくりという、自分を超える、持ち家づくりを超えるということです。持ち家づくりは大事です。自分の家をしっかりして、ただそこで止まっているのが日本でした。門、塀ががっちりして自分たちだけ立派に庭を造るが外には見せないようなやり方です。欧米はそうじゃないですね。そうじゃなくて、自分の家は勿論大事にしているけれども、その上で自分の家を超えましょう、まちや地域を考えましょうというのが今の本物のまちづくりであり、まさにロータリーの超我の精神と同じなのです。超我というのは我を超えるわけです。自分を超える。自分を大切にするのは当然でありこれはやらなくちゃ困ります。自分の家族も大事に出来ないで社会貢献もあったもんじゃないということで、まさにロータリーの理念は公益の理念なんですね、自分を超えるということです。

ところで、まちづくりというのは自分たちとか、地元の人たちだけで出来るものではありません。どの地域でもよそ者というと失礼ですが、どこかよそに行って協力する、それで出来上がるものです。このパンフレットの7頁にもそういうことが書いてあります。大学の近くに神社があり、そこの神社に大曲の大政治家、衆議院議員を7期もやった大曲の大地主榊田清兵衛の巨大な碑があるんです。庄内の国会議員じゃないんです。大曲の国会議員のでっかい碑があるんです。赤川の氾濫に窮しそのために赤川を改修する時、広野の農民の意向を汲んで内務省に交渉して骨を折ってくれたのが選挙区も関係ない榊田清兵衛さんでした。村民は地元の国会議員でなくて秋田の国会議員に巨大な感謝の碑を建てました。あるいは日和山には石井虎治郎さんの碑があります。彼は千葉の人でしたが、最上川、そして河口の整備をやってくれました。その御礼に本間家は住宅を提供しました。どうぞ住宅を上げますから酒田に永住して欲しいと。石井さんは永住をして亡くなる。亡くなったら酒田の人は最も見晴らしのいいところである日和山に彼に感謝の碑を建てています。そういうよそ者がどんどん入ってきて協力して良いまちになっていくのです。

酒田、あるいは遊佐から朝日村まで良く見ると素晴らしい人間がいっぱい出ています。しかも全国各地で出ているんです。地元ではあまり知られていないのに東京、中央、その地では大変高く評価されている人が庄内にいっぱいいるんです。驚きました。大変な土地だなと。例えばここには出てきませんか、遊佐から見ると佐藤国蔵さんという人が出てます。お医者さんならご存じだと思いますが、地域医療に貢献した人で、まだ初期の東大医学部を出てから、ほぼ全盲になりかけて盲学校に入り、そこで日本で初めて音楽を点字訳したのが佐藤国蔵さんです。日本の盲人のために文化や音楽に入れる道を作った人です。現在の遊佐病院がその末裔で、遊佐病院の正面の佐藤国蔵さんの碑にはちゃんと点字で功績、業績も書いてあります。庄内ではあまり知られていません。東京では新書の伝記も出たけれども地元ではあまり知られていない・・・。そういう日本をリードした人もいるのです。

あるいはよく知られていますが鶴岡の市立図書館の正面に碑がある松本十郎さん。この方は札幌や根室に行ったら大変な偉人です。札幌市

の歴史を見たら札幌の三大偉人に松本十郎さんが入っているんです。札幌の三大偉人なんです。根室に行くと駅のすぐ近くに松本町という町名が残っています。根室を開いたのは松本十郎さんですから・・・。彼は荘内藩の藩士でリーダー格でしたが、北海道の開拓に行って今で言う知事に近いところまで行って、アイヌ人の保護で考えが合わなくて戻って来ました。彼は近代的な官僚の道も開いています。「いばるな、ものをもらうな、住民、市民はさんづけで呼べ」と。官僚はいばっているので、全ての人を、アイヌだろうと移住者だろうとさんづけで呼べと、そういう近代的な官僚の素を作った人も鶴岡から出ております。

あるいは、児童福祉の先駆者で五十嵐喜広さんという人もおります。彼は岐阜で孤児院を明治20年代日清戦争の頃に開設しました。その当時は孤児院はまだ少なく、特に近代的なものは少なかったのです。大原孫三郎が出資し応援した石井十次さんの孤児院が先頭を切っておりますが、それにやや遅れて五十嵐喜広さんが岐阜で孤児院「日本育児園」をはじめたのです。彼は湯野浜の出身ですが、日本という名前をつけた孤児院を全国にそれを広めた人です。

そういった人が庄内いたるところにいるんです。驚きました。庄内というのは大変な所だなと思いました。地元に残った人も沢山おります。芸術家、作家から始まって沢山おります。経営者もいっぱい中央に出てます。軍人もいれば思想家もいる。ひとつの県に負けないくらいの人材を出しているのです。山形の内陸も庄内に負けないくらい出しています。私の出身は新潟ですが、山形は新潟の人口の半分ですが新潟に負けないくらいの人材を出している。ひとつの県で日本銀行の総裁を三人以上出しているというのは地方では山形くらいなもので、大蔵大臣はもっと出していますから、山形は田舎の県じゃないかと思われそうですけれども、そうじゃないんですね。そういうことを私もよそ者として入ってきて大変学びました。

景観もここは素晴らしい。今日は鳥海も月山もきれいに見えております。戦前のある評論家でこの庄内の鳥海山は日本一だということを言った人もいます。私もそう思いました。新潟から来て、ああ、こんなにいいところがあるんだと。もしこの大学が出来なかった私は庄内を見ないで死ぬという大変情けない経験で終わったんだなと思っております。皆さんのおかげでこの大学に迎えていただいて本当に素晴らしい体験が出来ました。そして、県からありがたいことに去年「庄内の公益の偉人伝を書いてくれないか」と依頼がありました。おかげで全市町村を見て回ったらいい意味でのとんでもない人たちがいました。そういう機会を県からいただかなかったら表の人材しか見なかったかもしれません。せいぜいこういうパンフレットを、市民講座で、鶴岡版、今度酒田版を作ったんですが、これを遊佐とか三川とか方々で作りたいと思っております。と、この程度に終わったと思うんですが、仕事をいただいたおかげで遊佐から調べたらそういうすばらしい人がいるんだと、公益の宝庫だと感じました。そういうことでこのような大きな大会をここで開いたということも大変意味があることではないかと感じております。

まちづくりから、そのまちづくりの源流をたどって来ましたけれども、一見、そうと思えない用水路、堰とか、クロマツ林とか、農業倉庫とか、これはみなまちづくりにつながっているわけなんですね。景観とか、あるいは考え方とか、そういったところに表れているわけで、昔から公益ということ、皆のためにということになりますが、それだけではなくそれに反することもありますが、庄内という所はそれが中心になって生きてきたんだということを教えられたと思います。

当地では、戦後も私どもが来る前からも銀行とか大手の企業とかが、地域活動とか、地域貢献を社是に入れているんです。これも関心しました。あるいはトップがそういう意識を持っているということでしょう。公益大学が来る前から、荘内銀行とか前田製管の社是とかを見るとちゃんと入っているんですね。驚きました。現に社長や頭取さんはそういうことをやって来ているんです。私どもは開学1年目から6年間、荘内銀行さんから信託で寄付をいただいております。ず

っとそれを続けていただいております。あまり皆さんには知られていませんがそういうこともしっかりとやっていただいているということであります。

そんなことで公益の足跡が大変顕著な庄内、そこにロータリーの皆さんが加わってまた新しいまちづくり、あるいは未来を作ろうとしているんじゃないかということで、私もその隅に名を連ねさせていただいて、むしろ教えていただいているということであります。私も本当に本心からロータリーの精神と公益は同じだと、公益というのも自分を超える思いやり、サービス、これが出発点です。誰でもみんな最初は自分を守る、それは当然なんだけれども、それを超えるところから公益が始まる。これはまさにロータリーの考えと同じなんだと。だからロータリーの精神、活動が浸透すればいいまちづくり、理想のまちづくりも必ずできるんだと。まちづくりというのは人間がつくるんですから、人間がその気になれば必ずいいまちになります。日本はもうだめだよと、欧米に行ってもう日本にはがっかりしたと、とてもあんなきれいな町、電線や電柱がなく街路樹がきれいで、あれは日本では無理だとあきらめてはいけません。欧米だって2、3年で作ったわけじゃありません。50年、100年、200年もかけて作って来たのです。日本人も「よし、みんなでいいまちをつくろう」とやれば良いのです。政府も都市再生とか都市の景観ばかり考えないでもっと地方を考えて欲しいと思います。地方、地域が原点なんですね。そうすれば必ずいいまちづくりが出来ます。東京、大阪がいくら良くなっても日本は良くなりませんので・・・。東京、大阪はある意味で十分過ぎます。

都市再生本部というのがあって小泉首相も公益大学を大変評価してくれました。都市再生本部という名前の都市というのを取って地方再生本部にして欲しいくらいでありますが、とにかくロータリアンの皆さんがそのつもりでがんばれば、必ず日本は良くなるという意味で、是非これからも皆様のご活躍を期待しております。

ちょうど時間ですので、後はロータリーさんのおかげで出来たこの「公益の源流　酒田を歩く」を見ていただければありがたいと思います。こういうものが各地で出来れば良いと思っております。この鶴岡版を持って気仙沼に行きましたら、気仙沼の高校の先生から是非気仙沼版を作りたいとの事で真似ていいかと申し入れがありました。私は是非作ってくださいと言いました。そんな土産話もありました。

今日は時間足らずで十分なお話ができませんでしたが良い機会を与えていただきました。

ありがとうございました。

記念講演／第2部

景観から見た日本の心

―景観10年、風景100年、風土1000年―

桐蔭横浜大学工学部教授
造園家　涌井 雅之 氏

ただいま水戸部先生に過分なご紹介をいただいたんですが、「白愁のとき」では若年性アルツハイマーでありますが、今日はアルツハイマーでない姿で参りました。

本当に山形は良いところですね。私は実は35年前、山形県内を約1カ月旅を致しまして、旅をしたというのは当時ご承知のとおり東北は軒並国有林ということでありまして、その国有林が全盛を誇っていた頃、だんだん林野庁に翳りが出始めまして、そしてその広大な国有林をもっと国民に解放すべきだということで保健休養林でありますとか、あるいは国設スキー場を設置しようということで、秋田営林局の依頼を受けて全県を踏破を致しました。

月山にも、湯殿山にも、そして鳥海山にも登りました。当時は山形からここまで来るのはなかなか大変だったですね。そういう中で最上川の風景にも感動し、ずいぶん山形を私は良いところだなと。しかも食べ物も大変おいしい、人情も良いと、こういうふうに思ってきたわけであります。以来、何回かこちらをお訪ねしているわけであります。

先程、公益文科大学の小松学長先生が、都市再生ということではなくて、むしろ地方からというお話がございました。全く私もその通りだと思います。今日は私がＮＨＫで3ヶ月間、「景観から見た日本の心」というのを講義をしたわけでありますが、それから少しエッセンスをとって左手の方にスライドを用意致しましたので、スライドを見ながら皆さん方と地域、地方を考えていきたいなと思っております。

皆さん方、ローハスという言葉を聞いたことはお有りになるでしょうか。のっけから横文字が出てきて大変恐縮なんですけれども、このローハスというのは最近大変あちらこちらで高く評価されて露出している言葉であります。簡単に言いますとLifestyle of health and Sustainability、即ち新しい生活文化というのは健康と環境を考えることだと、こういうライフスタイルを確立することが21世紀の人間らしい姿だと、こういう話であります。これは単にコピーライターがちゃらちゃらっと考えた文章ではありません。アメリカ人の社会学者のポール・レイという人と、それから心理学者の1人が15年間、15万人のアメリカ人を調べた結果、そのアメリカ人の15%が非常にウルトラコンサーバティストといいますか、非常に信仰を大事にしている人たちでありまして、26%の人が科学技術と未来を信じていればアメリカは大丈夫だというふうに考えているということです。この傾向がほとんど変わらなかったんですが、ここ10年あまり、そこに新しい26%の層が出て来た。この人たちが何を考えているのかというと、自身の健康と環境を考える、そういう層であるということから、2000年に本を出しましてローハスという言葉を作りました。以来、このローハス市場というのは約38兆円だと言われております。なぜ今、私が冒頭ローハスの話をしたかということは追々お分かりいただけるのかなという気が致します。

さて、我々は20世紀、産業革命以来でありますが、物質文明を一生懸命追求して来ました。この写真はつい最近の中国大連の朝であります。もう本当にホテルから見ても煙がもうもう、瀋陽とか大連というのは黄砂と相まって空気が汚れており、やがてはこの庄内地方にもそうした雨なり砂なりを降らせることになるわけでありますが、我々は地球上の大気ですら経済の代償にしてきたと言っても過言ではありません。

さて、次のスライドを見ていただくと真ん中にポンと建っておりますのが六本木ヒルズであ

ります。そしてその脇に赤い建物が2棟ありますが、これが村上さんとかホリエモンさんがお住まいの六本木ヒルズというやつです。東京を見てみますとこんな状況なんですね。皆さんは山形というところにお住まいになって本当に幸せだと思います。東京は人間が住む場所ではないですね。こんな中に我々は住んでなきゃならない。そして考えてみますと我々自身がどうでしょう、今、こうした物質文明なり都市文明を発達させて来た、確かにこれは大変なことであると思います。

仮に地球の46億年の歴史を1年間の暦にした場合にどうであったのか。文明はわずかに1万年前の発生です。1万年前というのは46億年の地球を365日の時間にいたしますと12月31日の午後11時59分であります。科学技術は300年であります。科学技術の300年というのはこの地球史の中でどうでしょうか。これは「ゆく年くる年」が終わって気の早い除夜の鐘がボーンと鳴っちゃうぐらいの時間でたった2秒間なのです。しかし我々は尊大にもこの46億年の地球、とりわけその中で我々の生命史・・・生きているという生物が誕生して36億年もしくは38億年と言われているんですが、それから比較をしてもたった２秒間で地球、宇宙が全てわかったような気分になっている。これは大変大間違いであると。これを良く認識しなければならないということを是非ご記憶いただければ嬉しいと思います。

その結果どうでありましょう。日常、自殺者が毎年3万人を超えております。ベトナム戦争であの10年間でアメリカ兵が何名死んだのか。この数は3万4千人をはるかに下回っているんです。イラクでアメリカ兵が何人死んだのか、英国兵を含めてわずかに6千4百人であります。年間3万4千人自ら死を選ぶ、これは一体どういうことでありましょうか。我々はこれを平然として受け止めている我々自身がおかしいんじゃないかと思うほどの状況であります。しからばそれはどこに原因があるのか。大変先鋭的な言い方をすれば、実は我々は文明というものを編み出したわけであります、1万年前に、11時59分で。しかしその文明によって我々自身が自己家畜化現象に陥っている。ここを十分によく考えなきゃならない。これが我々にとって非常に重要なテーマではないだろうかと思うのであります。

心理学者で有名なマズローという人が大変おもしろいマズローの5段階説というのを言っております。それは人間の欲求というのは果てしないと。果てしないけれども5つの欲求に大別できるんだと、こう言っているんですね。最初の欲求は生理的な欲求。確かに考えてみればお腹が空いているとか、そういうのは嫌ですから、まずこれが満足されなければだめだ。これが満足をされるとやがて安全への欲求、つまり人から食べ物を奪われないとか、そうした安全の欲求に繋がります。これが満足すると初めて人間らしい愛の欲求とか所属の欲求というのが出て参ります。そしてこれが満足すると誰かに認めてもらいたい・・。これはよく考えてみると夫婦関係にも良く似ていますね。生理的な欲求から始まって安全な欲求、そのうち「あなた私のことを愛しているのかどうかはっきりしなさい」とか言われる承認の欲求。これが突き抜けるとようやく自己実現欲求という人間の高みに達すると、こう言ってもよろしいかと思います。

翻ってこれを考えて見ますと、日本の戦後の発展はどうでありましょうか。最初の頃、闇米を買う、あるいはお芋をどこかから買って来る、まさに生理的欲求から始まりました。そしてそれが安全の欲求につながり、やがてそれが朝鮮事変が終わって特需が起きて、日本の経済が安定して来ると企業というものになり、そこでようやく家族関係がきちっとなり、そして企業戦士が生まれた。そのうち「上司が自分を認めてくれない」とかというつぶやきに変わって、そして団塊の世代は今もうあと2年で卒業で、これから自己実現欲求の世代に入るけれどもどうしていいか分からないと、こういう状況になっています。まさにマズローが言っていることは、これは人間の欲求のヒエラルティとしては実に的を得た話だなと思っております。

ここからが肝心なんですけれども、我々がビジネスを考えたり、あるいは生き方を考えたりする上で非常に大きなポイントがあります。それは我々自身のパラダイムが転換した、そこをきちっとビジネスなり、あるいは日常の生活の

上に投影しているのかどうか。これは私が作った公式でありますが、20世紀というのはまさに工業化社会でありました。そしてそれは文明の世紀でありました。20世紀というのは実はこれまでの世界史が始まって以来の戦争、病死を含めて大変な犠牲者を出した世紀でありました。そしてその屍の上に文明というものは築かれております。そのキーワードというものは一体何であったのかというと、日本の場合には追いつけ追い越せでありましたし、それから開発、建設、そして成長と、この3つの文字がキーワードになって、いつも何か毛沢東の語録ではありませんが、「成長、開発、建設」と言っていると何か元気がでるような気がして来たのです。その頃は皆さん何と言っていたかというと、「おい、ストレス解消に行こうや」とか言って、ここの湯野浜温泉なんかも大繁盛しましたよね。みんなストレス解消に行く。ストレス解消というのは集団で馬鹿馬鹿しいことをやって、爆発的にとにかく自分を忘れるという、これが大流行でありました。

戦後からその頃までの幸せは一体何がポイントであったのか。それは幸せというのは自分が欲しいものが自分の手に入ること、即ち物的欲求の物的充足度、これが幸せであったと考えておりました。これを目指すために我々一生懸命やって来ました。やって来たのですが21世紀に入ってバブルが崩壊した途端に、いや本当に俺は幸せなのか、私は幸せなのかと考えてみると、どうもそうじゃないと・・・。そこでなんとなく今度はぐたーっという気分になって来て、そしてストレス解消なんてことは殆ど今言いませね。何を言うかというと、奥様方によく聞いていただきたいんですが、癒しなんですね。癒しが欲しいのです。癒されたいんです。もうストレスなんていうんじゃないんです、癒されたい。その根本は何かと言えば実は幸福感が変わったということだと思います。その幸福感がどう変わったかというと、自分らしくありたいということに対して自分の人生の有益な時間をどのくらい割けるのか、それが実は幸せだと・・・。ここに1千万円あってこれで1年間なり2年間あなた自由に遊んでも良いよということと、何を言っても文句言わないということと、僕はどっちを取るかと言われたら両方欲しいと思うけれども、たぶん後の方を取るだろうと、こういう状況なんですね。

即ち今や我々は自己実現欲求ということに対して非常に敏感な世の中になって来た。それは何も我々の気分の問題だけではなくて、実は日本の経済の特質が単なる物的成長、物理的成長だけを志向しているのではなくて、そこに地下社会、即ちものを作るのはよそでも作ればいい、どんなものをどのように作るのか、そういう創造力を実は求められる社会に変わってきたということにほかならないわけであります。しかし、そういう状況はどういう環境から生まれるのか。これが非常に大事なことであります。そしてどのような日本人としてのアイデンティティがこの中から生まれて来るのかということが大変大事なことであります。

ここから私の専門に入るわけでありますが、皆さん、この写真を見てください。やがて何枚かの写真をお見せしまが、大変懐かしい気分になっていただくのではないかと思います。庄内には、あるいは山形にはもっといいスライドがあるよとおっしゃられるかもしれませんし、山形市内の方からは千歳山なんか良いぞなんておっしゃられるかもしれませんけれども、そういう中でこんなスライドをちょっと見ていただきたいと思います。

かつて日本人は常に自然と呼吸しあって生きてまいりました。たとえばこうした入り江、湾岸では船乗りたちが山の上に神社を祀ったんですね。何故かといえば航海の安全のため、山のシルエットが分からなければ自分がどこを走っていいか分からない。海彦山彦はいつもお互いに交錯しあいながら生活を暮らして来た。このスライドは岩国でありますが、実はここに大変な日本人の知恵が隠されています。この山の向こう側は日本海なのです。日本海から冷たい北風が来る、それを防ぐために山を背負ったところに集落が出来ています。今、あそこに白い花が見えるのはコブシの花であります。ちょうど早春の時期ですね。つまり雑木林であります。そして大きな杉の木が何本か見えますが、あれ

を辿っていきますとそこに沢があります。即ち水辺に杉を植えている。そして集落の周りにはアカマツを植えています。これはどういうことかと言いますと、北風を防ぎ、集落の周辺にアカマツを植えて、そこから落ちた葉っぱでかまどの火を炊きます。松は油がありますから火力が非常に強い、そして雑木の山からいろいろな林産副産物を作って畑の肥やしにし、建築の用材は沢筋に植えている杉を使って家を建てる、まさに自給自足、地産地消の生活であります。そしてそれは自然を読み取ることによって初めて生まれて来た生活でありますし、それ以上に美しいのであります。安倍総理が「美しい国づくり」とおっしゃっていますが、本当に美しいと思います。

美しいということで見れば、このスライドはもっと美しいです。これは松本の安曇野の山葵田であります。この山葵田をたとえば私がデザインしろと言ったらこんなことはとっても出来ない。実はここは用の美があるんです。即ち地下水がどういうふうに流れてくるのか、そして風がどういうふうに吹くのか、それによって最もいい山葵ができるためにはどういう植え方をしたら良いのか。これを追求した結果、こういうデザインにたまたまなったわけです。これは用の美であります。即ち日本人の美というのはこういう自然と呼吸しながら、自然の恵みを最大化することによって培い、そして美しい国というものは出来て来たのです。

今日私は飛行機で東京から参りましたが、本当に酒田のロータリークラブの方々は大変なものだなと思いましたのは、今日これだけ良いお天気にしたことですね。飛行機で出羽三山から鳥海山からみな見えました。上空から見て一番感動したのは実は防風林であります。あの日本海のところに千本松原のように松を植えて、しかもその周辺にずっと先祖代々の防風林を植えて、その間に畑が出来ている。実にきれいな姿であります。さて、こちらは北関東の谷地田であります。こういう谷地田ではどういう現象が起きるかというと、要するに日が当たらないところ、日が当たる場所、様々であります。そこで日本人は知恵を働かせました。冷や水係という最も米を作るのに不適な水をぐるぐると水路に回すことによって温めるわけですね。そしてひとつひとつの田んぼを猫の額のように小さくして、そして一番最大に太陽が受光できるような形にデザインをしている、向きを決めている。それがやはりこういう美しさを生むのであります。

ましてや日本のように地滑りが非常に多いところではどういう方法をとったかと言いますと、幾世代にもわたって自然とせめぎあいながらぎりぎりのところで自然とバランスを図るために棚田を作ります。今まで我が国には3千6百万枚の棚田があったと言われております。しかし現在1千万枚無くなって2千6百万枚の棚田しかありません。皆さん、棚田が無くなったということはどういうことだと思いますか。実は佐久間ダムの規模が10個無くなったこととイコールなんです。つまり棚田は降った雨を貯めてくれるんです。かつてカールゴンデレーケという人が日本に来て「日本の川は滝みたいだ。オランダ人から見たら滝のような川だ」と言いました。日本には沢山雨が降ります。確かに沢山雨は降りますが、急峻な地形のためにどんどん全部海へ出てしまう。だから降雨量が多いから水が豊かだというのは間違いなのですね。かつて我々の祖先はそれをどういうふうに国土で水をきちっと管理して受けていたのかというと、ダムを造らずしてもこういう棚田のような方法で対応していたわけです。そして地滑りのようなことが無いようにしていたのです。土地を管理し、最大に恵みを得る、そして美しい国土を作って来たのであります。

こうした日本の美しさというものはじゃあどんな結果によって出来て来たのか。これをほぼドイツと日本は同じ面積でありますから、これを比べてみたらおもしろいですね。ドイツは平坦であります。日本は厳しい地形。そして細長い国土であります。真ん中を脊梁山脈という山脈があって平野は狭い。しかも世界の約1割の地震が日本で起きている。さらに言えば大雨と台風、これがしょっちゅう来る。そしてヨーロッパの大都市はほとんどが沖積台地のようですが、日本大都市の場合には農業国ですから沖積

低地になる。従って大変災害に弱いんですね。そしてもうひとつ、何と世界中の6割もの雪が日本に降っているんです。皆さん意外とご存じないと思いますが、日本ほど降雪量の多い国は無いのです。つまり今日、会場におられるご婦人方と同じように美しいものにはとげがあるのです。日本はただ美しいだけじゃない。そこに天災地変というとげがあって実は出来上がっている。我々の先祖はその美しさと向き合いながらいかにしてとげを抜くのか、そこに腐心をして来ました。その結果、管理された国土が出来て来たと言っても過言ではないんです。

これを見てください。この10年間にマグニチュード6.0の地震が世界で780回起きている。その内のこのパーセンテージが何と嬉しくないことに日本で起きているんですね。いかに我々の祖先が天災地変と戦ってきたかということであります。その知恵はどこで生まれたかというと、棲み分けの知恵なんですね。ちょうど奥様と旦那様の寝室を分けているような感じです。即ち家と庭があり、そして里が出来て、その里の向こうに野良があって、野良の向こうに野辺があって、その後ろ側に里山があるんです。ここまでが人間界です。人間はこの里山以内は徹底的に利用して農の風景を作り出す。そしてその里山の奥には奥山というのがあります。そしてさらにその奥には岳というのがあります。岳は神様の中の神様の山です。そして奥山は杣人(そまびと)とか、あるいは猟師であるとか、坊さんとか、そういう限られた人しか行けない。そのことによって自然を保護する場所と人間が利用する場所を上手に棲み分けたということであります。里山というのはいわば人間界の中で最後の砦なんですね。そしてその証拠に里山には必ず鎮守があります。その鎮守がそこで終わっているのかというと、実はそのご本陣は奥山にあります。さらにその向こうの岳にも神様がいる。そういうことで日本は風景の原型をどの地域でも同じように作って来ました。これは沖縄に行きますと岳が海になります。そういう棲み分けをして生きて来ました。これは何かといいますと、先程私が申し上げたように自然と呼吸し、自然を知ればこそ自然の恐ろしさが分かる。その恐ろしさからとげを抜いて、そしてその中で人間が最大に自然の恵みを受ける仕組みを上手に作って来たということにほかならないのであります。

そうした生活というのは実は日常の中にも入ってまいります。たとえば世界中で花を床の間においてそれを正座して眺めるなんていう民族は日本人しかいません。これは座鑑と言います。座って花を見る。肥後六花なんていうのを作って、熊本に行くと6つもわざわざ床の間に据える花をこしらえています。さらに言えば縮景、日本人は縮めて、縮めて、縮めて、そのことによってその中から却って本質をえぐり出すという能力を持っている。その知恵が何に結集しているかというと弱電であり携帯電話であります。皆さん携帯電話お持ちになっていると思いますが、ちょっと出していただくとわかるんですけれども、不思議なことに携帯電話を見てください、あれは印籠なんです。いや本当に。ヨーロッパ人で携帯電話に根付けつけている人いませんよ。今、ケータイストラップという変な言葉に変わっているけれども、あれはそのまま水戸黄門の気分になってこうやって見てください。印籠なんです。即ち我々は意識しなくても、我々の祖先の知恵というものがちゃんと遺伝子の中にあるのです。どういう携帯電話が一番良いかというと、持った感じが印籠のような感じがして根付けがあった方がいいなと思うんですよね。気がついたらそう思われませんか。私は印籠のコレクションをしているんですが、そこに携帯電話を並べても全然不思議じゃない。つまり我々は気が付かなくてもそういう文化の原型というものを持っているのです。それはこういう縮景、つまり縮めて縮めて本質をえぐり出すという日本の文化力、そういうものに関係しているんです。

これを皆さんご覧になって下さい。これは何だと思いますか。菊ですね。でも菊とおっしゃる傍ら、松じゃないのと思う意識は有りませんか。そうでしょう。お有りになりますね。私がアルツハイマーで狂っているんではないですよ。つまり我々は菊を見て松を見る、これを見立てといいます。見立てる。つまり我々の心の中には景色を見る時にさまざまな心の操作をするん

です。そして見立てるという力を持ちます。これも日本の産業力の中には大変な形で実は生きているという事実があります。プロダクトデザインの中にこういうひとつの仕掛けは沢山あるのですね。

皆さんそういうものと近代的な産業は関係ないというふうに思われるかも知れませんが、もし丹後ちりめんがなかったら京都にワコールはありません。あの丹後ちりめんの柔らかさが下着を作っているんです。京都に清水六兵衛がなければ京セラは生まれません。あの要するに高硬度のセラミックがなければ京セラの技術に繋がらないです。つまり伝統的な技術というものは近代産業をも突き動かす力があるというふうに私は思っています。

今日も庄内平野のさまざまなお庭を見てまいりました。すばらしいお庭がありました。鳥海山が見えていました。我々は常に自分の近い景色、そしてその真ん中の景色、遠くに見える景色、この三つをいつも対比させながら生きているわけです。私は山形に新幹線で行くと最近はそういうふうに思わないんですが、昔汽車ポッポで行った頃には、山形に来たなと思うのは千歳山のあのもっこり山を見ると、「ああ山形に来たな」と。庄内にくれば鳥海山が見えて来ると庄内に来たなと思うのです。それらは地域のランドマークですね。つまり先程申し上げました岳なり山なり里山のそういうものを意識の中において、それをメモリアルにして自分がどこにいるかという座標を決めていくという、そういう動き方をしているのであります。

つまり我々はいつも遠観的にものを考えている。西洋人は違うんです。西洋人は草原と砂漠に生きた民族ですから、周りを見たって何もないんですね。どこを見るかと言ったら、下を見たら砂だし、草だし、見るところがない。しょうがないから上を見るんです。星がある。そこで絶対神が出てきます。星に神様がいる。そうすると三角形の思想になるんですね。神様がいて、キリストがいて、人間がいて、動物がいて、植物がある。この三角形同士がぶつかると大変なんですよ、イスラムとキリストみたいに。ところが我々東洋人は周りを見たらいろいろなものがありますから、上を見る必要がない。そうすると多様な要素をずっとぐるっと見渡す、だから遠観的な思想が出来ます。それが基本的な文化の資質の違い、それがこの近景、中景、遠景というものの見方にも表れていると思います。即ち景観というのは文明と文化、自然と人間社会のありようを視覚的に表現した地域遺伝子なんだということをぜひご理解いただきたいと思います。

しかし我々は冒頭のスライドでお話をしたように、残念なことに日本の風景を自ら殺して来ました。即ち側に美人で聡明な奥さんがいるのにもかかわらず、隣の芝生の方が良いなんて思ってしまうんです。自分の目の前にある有益な資源というものに甘えてそれを忘れちゃうんですね。資源の無い国は作ることに熱心です。しかし資源の有り余る国はそれを消費することに熱心になってしまいます。

私は昭和20年生まれでありますが、東京あたりでも、あるいは鎌倉あたりでも、昭和38年ぐらいまでは江戸時代が有りました。江戸時代の風景が残っていました。それは物売りにしても、それから景色にしても、生活習慣にしてもそうでした。しかし、東京オリンピック以降どうなったかというと、全くそうした自然と呼吸しあう知恵というものは急速に失われてしまいました。日本の風景は殺されてしまったのです。日本の風景が殺されたということはどういうことかと言えば、我々自身の心象風景を殺したということであります。

しかし、政策を考えてみると、だんだんさすがに日本政府もいろいろものを考えるようになって参りました。ようやく最近になって美しい国づくり政策大綱というものができ、そして観光立国推進会議というものができ、景観緑三法という法律が出来たのであります。ちょうどこの表で言えば1968年に高度経済成長でGDPが世界第2位になりました。そして73年にプラザリポートが出来て、それでも日本の輸出がとどまらないために81年にマイカーリポートというのが出ました。そして73年、77年と二度にわたるオイルショック、そしてバブルといってひたすら走ってきた。この間の日本の国土づくりはどう

であったのか。これは日本を全て平均化する、平準化するということであります。酒田の駅を見てください。どこに行ってもあんな駅は沢山あります。街はどんどん個性を失っていきます。自分がどこで生きているのか、どこで暮らしているのか、これが無くなって行きます。

これからの世界は実は都市間共存なんです。皆さんよく考えてみてください。世界を見た時にフランスのパリと言いますか？イギリスのロンドンと言いますか？アメリカのニューヨークと言いますか？いや、ほとんど言わないと思います。世界的レベルでは東京とニューヨーク、ロンドンと名古屋、つまり都市間共存の時代です。この都市間共存の時代に何が必要なのかと言うと、ひとつはグローバリズムであることは言うまでもありません。しかしその中で非常に大事なことはローカリズムなんです。地域がどういう特色を持って生きていくのか、地域がどれほど自分たちの地域遺伝子を大事にして生きていくのか。この知恵を欠いたところは没落して行くことはもう言うまでもないんです。

私は今一生懸命言っているのは、おそらく道州制になることはもう間違いないだろうと言うことです。だとすれば我々は何を目指すのか。それは廃藩置県ではなくて廃県置藩なんです。もう一度藩の時代に戻るのです。藩の時代というのは実にその土地の自然の特質を明瞭に明らかにしていました。庄内藩、これひとつとっても、もう実にその中で自給経済をどうたてるのかということを一生懸命やっていました。そしてその適正な地域のアイデンティティと道州制というものと、そしてさらにその上に都市間共存が出て来るというのは、実はもうあと10数年もすれば必ずそういう時代がやってくると思います。その時に相変わらず東京と同じように・・・、あるいは大阪と同じように・・・、こう考えて行ったらその地域は埋没するばかりなんです。これこそが地域遺伝子をいかに活用していくのか。その証拠を見ていて下さい。

我々は日本は美しい国だと思っています。しかし、残念なことに海外から日本に観光客がどのくらい来ているのかというと、なんと世界で35位です。去年になりましておかげさまで34位になりました。私は愛知万博のプロデュースをやりましたが、あれで相当外人が来てくださいました。今日も庄内に韓国の人がずいぶん来てくださって良かったなと思っていますけれども、世界で34位。アジアで9位です。これはどうしてでしょうか。

もちろん我々が経済的に豊かになって世界に出て行くということもあります。しかしその一方で日本に外国客を誘因するだけの魅力を自らが作り出していないということなのです。自らが自らの価値に気がついていないというその証拠であります。観光産業というのはものすごい大きな規模があります。市場規模が約24%、GDPの約6%、雇用の7.3%に匹敵する。さらに言えば他産業への波及効果がものすごく大きい。そして旅行消費額というのはどのくらいあるのかというと、付加価値効果で約30兆円です。WTOという国連の世界ツーリズム産業の機関があります。今、世界中で世界人口の10%が国境を越えて行き来していると言われております。そういう時代に自分たちの価値、それを高めることを忘れて、ただ自然のなすがままにそれを消費している日本。かつて我々の先輩、先祖がその自然を大事に、里山以内は本当に特色のある地域を作ろうというふうに努力して来た、そういう努力を全部我々が消費してしまっているのです。海外に訴えかけるものを失なってしまったというのが非常に情けない話であります。

このジニ係数というのを見てください。ジニ係数というのは所得間格差であります。ついこの間まで我々日本人は平均的な所得だと、社長と平社員の給料は10倍も開かないと思っていたのです。しかしこのジニ係数を見ていただくと分かると思います。ジニ係数というのは、国なり集団の構成員なりの所得格差が全体の平均に対してどうなのかという指標です。だからゼロは要するにほとんど所得格差がないということです。しかし、1960年代から70年代までほとんど日本はゼロに近い状態でありました。80年になって少し差が開いて来て、1981年が0.35、1999年が0.47と実は所得の格差というものはものすごく広がっているのです。この所得の格差は皆さん個人の所得の格差で広がっている分にはま

だいいんですよ。その内必ず地域間格差になって出て参ります。その時に何が必要なのかと言うと地域ブランドです。即ちその地域が自らの価値にどれだけ気がついてどれほどその価値を高まらせるような方策をとるのか。これをとらない限り、結局は埋没してしまう。これが非常に重要な観点だと私は思っております。

即ち景観というのは我々の心を和ませる風景であるばかりではなくて、その風景は我々自身の生きている命の環境の保全、そして生きる力を作り出す、そういう原動力なんだと。単に景観というのを何となく文化的な表現であるとか、文学的な表現であるとお考えいただくのは大変ちょっと失礼な言い方でありますが浅薄であると思います。景観というのは実はその地域の戦略そのものであるというふうに思います。

私は、一昨日シンガポールとタイから帰って来たのですが、シンガポールの国家公園局長と話をした時にがっかりしました。シンガポールはガーデンシティで有名であります。そして「あなたのところはガーデンシティですごいよね」と僕が言ったら、「いや先生、我々は戦略を変えたんです」と言いました。「何」と言ったら、「ガーデンシティは古い概念です。今、我々はシティインザガーデンとコンセプトを変えました」と言うのです。つまり、庭園の都市から庭園の中にある都市にコンセプトを変えたんだと。この意味というのはどういうことかというと、シンガポールはさらに国際的な投資の魅力の対象になるように、さながら庭園の中に都市があるようなしつらえを作って、美しさで実は世界から金融資本を集めるんだと。こういう国家戦略になったと聞いたんです。確かに成田空港とチャンギ空港を比べればがっかりしちゃいます。つい最近オープンしたバンコクの空港、これも成田空港と比べたらもう横綱と幕下13枚目ぐらいの感じです。本当にすごい空港が出来ている。即ち日本は内向きの社会ではあっても、そうした国際的な競争力の中で何を財産にして生きていくのかという戦略が全くない。実はそれは我々の祖先が築いてきた文化であり、風土であり、生活であるということであろうと思います。環境は五感にとらえられて、とりわけ視線にとらえられると景観という言葉になります。しかしこの景観という言葉はどうして景観という言葉なのでしょうか。景というのは物理的な意味がかりであります。日本人はそれを目で見ていないんですね。たとえば今日、自分の社員、皆さんきっと社員の顔を見ると思いますね。「あいつちょっと今日元気ないな」と。これは何を見ているんでしょうか。それは対象の特質を見ているんです。これは心で見ているわけです。目で見る見方と心で見る見方があります。日本人というのは環境を目で捉えるだけではなくて心で捉える。従ってそれは非常に心象と関係があるのです。この景観が10年経つと風景になります。風景が100年経つと風土になっていくんです。これがいつも私が言っている景観10年、風景100年、風土1000年という意味なのです。そしてそれが文化になり、風土になる頃にはもうそれは景色というものじゃなくて我々の遺伝子そのものになります。さっきの印籠の話ではありませんが、そうなってこそ初めて実はナショナリティ、あるいは地域のアイデンティティというのが生まれてくるということであります。

もうひとつ景観の重要な要素というものをお話したいと思います。皆さん、ホメオスターシスという言葉を聞いたことはありますか。日本語に訳すと恒常性という意味です。簡単に言えば糠の中に大根を入れます。大根の中の水分と糠の濃度が1対1であれば大根はそのままです。しかし糠がものすごい塩気が強くて濃度が高くなると大根の水分がどんどん出て行きます。これは漬け物になります。さらに糠がもっと強くなってくると、実はたくあんになるんですね。即ち我々は環境、環境と言いますが、外側の環境のみならず生理的な環境を持っているのです。この生理的な環境と外の環境がイコールである時に初めてホメオスターシスなんです。恒常的なんです。これが激変するとどうなるかと言うと、たちまち生理的にものすごい反作用が起きて来ます。その結果、酔っぱらって帰ってきて「あなた今日どこに行ったの」と言われてドキッとして急にストレスがぐっと来る。今までストレスを解消して来たのに家に帰った途端にストレスが来る。皆さんも経験がありますでしょう。

これが激変なんです。激変をすると我々はものすごいストレスになる。これが実は笑い事ではなくて、近代医学は急性疾患には救命で実にうまく対応して来た。同時に慢性疾患をお友達にしたんです。しかしこの慢性疾患を刺激して急変させるのはストレスなのです。さっきの3万4千人という自殺者も実はそういうところに要点があるのです。我々は適度なホメオスターシスというものを保つためには何が大事か。それはやはり美しい景観、美しい環境、水と緑が豊かにある中にいることが実はヘルスプロモーションそのもの何だと、こういうふうに考えていただければ良いと思います。

人間の脳には情動というものを司る野生の本能があります。そしてそれをコントロールする知識の部分、そしてそれを判断する意識の部分、この知・情・意というのがバランスがとれています。しかし最近はどうでしょうか、我々は自然に接することが無い。その結果、ましてやバーチャルリアリティなどというゲームが遊びにどんどん入って来る。全く自然を知らない。牛という言葉を知っていても牛の触った感じであるとか、アブが飛んでくる話であるとか、牛の大きさであるとか、あるいは匂いとかを知らない。知識の量と認識の量はどんどん乖離して行きます。まして自然に対するそうした認識量はどんどん小さくなって行く。それが結果としてはどうなるのかと言うと、情の部分、本来は情動が暴れるのを防ぐために実は知識があった、この情動の部分がどんどんシュリンクしていって結果としてはバランスを欠いてしまうのですね。それがストレス過多になり、変な犯罪が起きたり、あるいは自殺が起きたり、そういう現象を起こしているのです。

先程申し上げましたように私は60歳ですが、実は38億60歳なんです。我々の中には38億年の生命史が生きています。そこを無視して60だけを考えれば実はとんでもないことになるということであります。我々の中には生命史がある。生命史の中には環境に適応してきた歴史がある。そこを考えていかなければならない。そのためには単なる地域にアイデンティティを作るのみならず、我々の健康にとっても景観とか環境を安定させると言うことが非常に重要になります。

皆さん、加齢と老化って違うんですよね。加齢は誰でも加齢します。老化はその方の遺伝子、これはしょうがない。しかしもうひとつあるのは環境とモチベーションで老化はぐっと変わります。老化は全然違う。よく会社をおやめになるとガタッともう急にしぼんじゃって、会社を辞めましたという手紙が来たと思ったら何か3年もしないうちに訃報が来るというケースがあります。いやそういう人が本当に沢山いますよ。つまり、我々を支えているのは意外とモチベーションなんです。ですから環境が変わると、いやこの間まで一流企業の専務だったという人が犬か何か連れて散歩している時にどこのおじさんかなと、あの時の輝きが全くなくなっちゃう。そういうこともあります。我々は絶えずそういう中でいかにモチベーションを高めるのか、そんな刺激を与えてていかなきゃいけない。医療モデルというのは単なる自然科学的な部分だけではなくて、環境への関心、治療より支援というところで我々がいかに元気な高齢者になるのかということを考えている時代が来たということなんです。

そしてもうひとつ、我々が大事にしなきゃいけないことがもう一点あります。それは共の時代の再構築ということです。即ちどういうことかと言いますと、公権力が強い時代、私権はさまざまに制限されますから、我々は共、コミュニティを作ってきました。そしてそれは結とか集とか式目だとか、あるいは地域の仲間とか、例えば土手の草刈りに皆で行く、用水のどぶ掃除の時はみんなでする、こうやって地域を支えて来たのです。しかし、公と共がフラットな時代なわけですね。税金を払ってますから、自分の家の前に猫の死体が転がっていると役所に電話して「おい、猫の死体が転がっているから早く片づけに来いや」となります。役所もバカだからそれを掃除に来るんです。なぜ掃除に来るかといえば、実は行政は行政サービスの拡大をしたいがあまりに共の部分を税金の負担で取り込んでしまった。そこから公共という言葉が生まれました。さっき公益の話がありました。公共という言葉もあります。本来なら我々は自助、

そして互助、そして共助、その次に公助がなければならない。しかし今や全て公助優先であります。公助と自助の間に共助と互助があることを忘れてしまう。せいぜい互助があるのは保険ぐらいなものです、互助会とかですね。本来一番大事にして行かなければならない地域の共、お互いが寄りかかって生きていくということが、もう全然おかしなことになっている。ところが行政団体は勝手なもので、財政が悪化してくると今度は自分で勝手に取り込んでいった共を放り出し始めているんです。その結果、我々自身が自己防衛のためにもう1回共助と互助を考える時代が来たのです。これが先程の公益に基づいてという発想と全く一緒だと思うのです。そういう時代、そこの要するにオーガナイザー、これはロータリアンの皆さんのような方々が是非やっていただくべきことだと思います。NPO、NGOを作って、いかに我々がコミュニティを回復するのか、それが今の時代のひとつの方向であろうと思います。

私は愛・地球博の総合プロデュースをしたわけですが、この愛・地球博のテーマというのは自然の叡智でありました。これは先程以来ずっと私が申し上げている日本人の知恵でありました。そしてここには未来を解く鍵がいくつもありました。これまでの博覧会150年の歴史、この歴史の中の一番大きな主体は国でありました。そして、やがてそれが大阪万博に表れるように企業になりました。これで愛知万博はやるのかと言った時に、私どもは違うと言ったんです。もうひとつ、第三のエンジンがある、それは市民社会だと。この市民社会という第三のエンジンを点けなければ愛知万博は成功しないよと。おかげさまで10万人のボランティアが参加することによって、実は予定を大幅に上回る入場者が来て、126億円もの収益を生みだしたわけであります。

即ち今我々が何を考えなきゃいけないのか、これはもう一度元へ戻ります。ローハス、即ちLifestyle of health and Sustainability、それは健康な暮らし、自然環境への配慮、自らの五感を磨く、古いものと新しいものの文脈を意識する。そして何よりも人と人、人と自然、この繋がりを意識する、それが持続可能な地球環境と経済を考える上での一番大きなポイントなのだと。それは一体どこにあるのか。それは我々が目で見て捉えられる、心で感じられる、そうした地域のアイデンティティ、即ち地域における景観をどれほど我々が人がうらやむように、人に誇れるようなものにするかに尽きるということが非常に重要だと思います。この山形の中にも様々な先祖の方々がこの自然と葛藤して生み出した知恵があります。この知恵を我々は皆残念なことに埋め殺しているのです。これをもう一度掘り出して、それを近代科学と上手にミックスをして新しい方向に作り上げて行くということが、実はアイデンティティがあって、この山形に生きて、暮らして良かったと、あるいは孫子にも「おい、この土地で暮らせよ」と、そう言える大きなポイントを作り出すことに繋がるんだということを是非考えていただきたいと思います。

ガーデンという言葉があります。庭という意味ですね、このガーデンというのは実は古代ヘブライ語で、囲うそしてエデンと言う意味です。つまり囲われた楽園という意味なのです。地球を考えて見て下さい。この全宇宙の中で極めて奇跡のようにわずか十数キロの範囲の薄い命の膜が出来ているという星は我が地球しかないのであります。これをある人はバイオスフェアと言いますし、ガイアという人もおります。即ち我々は地球そのものが実は囲われたエデンであると、そこに我々が命を司ってやって来た。しかも土地という上にその土地の資源性なり特性というものを背景に文化を築き、我々の生活が今あります。ましてや我々の孫子がこの土地の中で育って行かなければいけないとするならば、ローハス、即ち自分たちの生活のスタイルというものを健康で環境を考える、そしてとりわけその中で目に見える環境としての景観を地域の遺伝子として大切にしていく生き方を是非して行っていただければということをもって、私の今日のつまらないお話を閉じさせていただきます。

どうもご静聴ありがとうございました。

RI会長代理所感（本会議）

国際ロータリー会長代理
前川 昭一 氏

最後までお残りいただき、おかげさまで無事に終わることができまして本当にありがとうございました。

佐原先生のお話も非常にいい話でした。やはり空理空論というか、評論的な話じゃなくて、ご自身が経験されたロータリーの良さということを非常によく話していただいて、すばらしい講演でございました。感銘深く拝聴いたしました。

最後のお二人の先生方の記念講演も素晴らしいお話でした。実はお昼ご飯を食べた後ですから、これは二人もやることはないんじゃないかなとか、眠いんじゃないかな、これはうっかり居眠りしたらいかんしなと、私は前の席ですから弱ったなと思っていたんですけれども、いやいや居眠りどころの騒ぎじゃない。本当に素晴らしいお話で感銘を受けました。

佐原先生といい、お二人の先生といい、こういう方を講師としてお招きされた関原さんはさすがだなと感心したところでございます。

この大会は非常に明るくきわめて順調にスムースに進みまして、私自身も非常に楽しませていただきました。これはやはり現在のガバナーの関原さんの明るさ、屈託のなさ、そういうお人柄が反映された非常に明るい良い大会だったと、心からお喜び申し上げます。

ただ、RI会長代理としてはひとつ文句を言いたいことがあります。それは関原さんが最愛の奥さんの紹介を2回も間違ったことです。これは許せない。これはひとつしっかりとお灸を据えておきたいと思っておるところであります。

いずれに致しましても本当にありがとうございました。また私も娘を連れまして皆さんに大変歓待していただきまして、これも併せて心から厚く御礼申し上げまして所感といたします。ありがとうございました。

ガバナー謝辞

国際ロータリー第2800地区
2006-2007年度ガバナー
関原 亨司

本当に皆さんご協力ありがとうございました。今、前川さんから握手を求められました。一瞬、涙が出てきそうな感じがしました。それだけといっては言い方は失礼なんですが、大変良い方から来ていただいたと、ボイド会長に改めて感謝申し上げたいと思います。もし出来るのであればボイド会長に今すぐ御礼の電話でもしたいなという感じです。心が届くかどうか定かでありませんが、まずもって感謝申し上げたいと思います。

あとは大懇親会が待つだけでございます。こんなに爽やかに皆さんと一緒に過ごした地区大会が終わろうとしているということは本当におかげさまの心でございます。感謝でございます。

それから前川さんはお忙しい中、お嬢さんの真理子さんとともに優しくご指導いただきました。これもあと一生にないことだと私は心得ております。この二日間を通してやはりロータリーに入っていて良かったんだという実感が皆さんにも若干なりとも感じていただけた地区大会ではなかったのかなと思っております。

やはりこういうふうな地区大会は一年に一回でございます。贅沢だとか、あるいはやりすぎだという批判も無きにしもあらずなんですが、これからも一年に一回の地区大会を大切して行きたいと感じております。来年は米沢でございます。米沢でも皆さんとまたお会いできることを楽しみにしております。

2800地区を代表致しまして皆さんともども前川さんに今一度大きな拍手をもって感謝の言葉にしたいと思います。

大会決議

●第1号議案

2006〜2007年度
国際ロータリー･テーマに協力推進する件

国際ロータリー会長ウイリアム B･ボイド氏は本年度のRIテーマとして、「LEAD THE WAY」(率先しよう）を掲げられました。その実現のため､更に決意を新たにして､積極的にテーマを推進することをここに決議します。

●第2号議案

国際ロータリー会長代理派遣に対する
ウイリアム B･ボイド会長への感謝の件

本大会開催にあたり、国際ロータリー会長ウイリアム B･ボイド氏は、前川昭一氏をその代理として派遣されました。同会長代理は本大会に出席され、極めて感慨深いメッセージを伝えられ、且つ適切なるご指導を頂きました。このような尊敬すべき会長代理を派遣されたウイリアム B･ボイド会長に対し、深甚なる感謝の意を表すことをここに決議します。

●第3号議案

国際ロータリー会長代理
前川昭一氏に対する感謝の件

国際ロータリー会長代理として、前川昭一氏は、御令嬢と共に本大会に出席され、ウイリアム B･ボイド会長のメッセージを伝達されると共に、国際ロータリーの現況について詳細に報告、且つ格調高い所信を表明され、参加者一同に深い感銘を与えられました。このような温かいご指導と友情に対し、心からの感謝の意を表明することをここに決議します。

●第4号議案

国際ロータリー第2800地区直前ガバナー
石黒慶一氏並びに令夫人への感謝の件

直前ガバナー石黒慶一氏は、2005〜2006年ガバナー在任中、国際ロータリー会長カール･ヴィルヘルム･ステンハマー氏のテーマ「SERVICE　Above Self」(超我の奉仕）の趣旨に従い、熱心かつ誠実に地区の運営に尽くされ、ロータリーの発展の為に大きな貢献をなされました。よって同氏のご功績並びに令夫人の献身的な内助の功に対し深甚なる敬意と感謝の意を表すことをここに決議します。

●第5号議案

2009−2011年度第1ゾーンRI理事の
指名委員並びに補欠委員選出の件

2009〜2011年度第１ゾーンRI理事の指名委員として、大江RC､パストガバナー伊藤巳規男氏を選出､補欠委員として、山形RC、パストガバナー野々村政昭氏を選出することを決議します。

●第6号議案

ホストクラブ並びに
コ･ホストクラブに対する感謝の件

本大会が地区外より多数のご参加を得て盛大に挙行され、ロータリーの発展のため輝かしい成果を収め得たことは､ひとえにホストをつとめられた酒田ロータリークラブの会員と、コ･ホストクラブ酒田東・遊佐・八幡・酒田中央・酒田スワン・平田みすみ・酒田湊ロータリークラブの長い期間にわたり周到且つ綿密なる準備と献身的な奉仕の賜物であることを思い、各クラブ会員に対し深甚なる謝意を表すことをここに決議します。

●第7号議案

2007年国際大会への参加に協力する

2007年6月17日〜20日迄米国ユタ州ソルトレークシティーにおいて開催される国際ロータリー第98回年次大会に参加協力することをここに決議します。

●第8号議案

2007〜2008年度国際ロータリー
第2800地区地区大会開催地の件

2007〜2008年度国際ロータリー第2800地区 地区大会を米沢中央ロータリークラブがホストクラブとして2007年10月6日から2007年10月7日まで米沢市において開催することをここに決議します。

LEAD THE WAY
率先しよう

表　彰

2005-06年度RI会長表彰

●奉仕への貢献に関する表彰状

■山形北ロータリークラブ

■酒田湊ロータリークラブ

ガバナー賞

【クラブ】

●地域社会への奉仕したクラブ表彰

■新庄RC
絵本と鯉のぼりの寄贈

■東根RC
東根市大富地区清流に棲む「イバラトミヨ」生息支援事業

■東根中央RC
イバラトミヨを守る会に支援。「水環境保全」事業
子育て支援拠点「さくらんぼタントクルセンター」に「母と子」像の寄贈

■米沢上杉RC
出前授業の実施。九里学園高等学校の2年生250名に対し就職、社会へ出てからの心構え等について会員から１時間に亘って講義。昨年に続き好評に開催、高い評価を得た

●国際社会への奉仕したクラブ表彰

■鶴岡RC
世界社会奉仕（WCS）プロジェクトによるマンダルーヨンRCへの識字率向上支援

■天童東RC
マッチンググランドによるバンコク小中学校29校へ浄水器贈呈、設置事業

■東根RC
1975年より交換学生の受け入れ、派遣学生が46名にも及び、31年間受入れ、派遣をしている

■寒河江RC
寒河江RCと台湾斗南姉妹クラブとの交換学生を相互に3年連続国際交流を通じて国際性を身につけ交流を深めた。2001～02年度に開始した姉妹クラブのアメリカユニバーシティヒルズRCとのWCSプロジェクト。マイクロクレジュ基金の視察調査でマニラにて国際親善交流を深めた

■南陽東RC
バリ島にてWCSとマッチンググラントを実施した

■長井RC
RI第3400地区（インドネシア）スラバヤ、カリアシンRCを通じ、地方の学校へミルクやその器具を贈呈した。当クラブはUS$1000を支給した

●会員増強優秀クラブ賞（純増5名以上）

■山形RC／純増5名

■新庄あじさいRC／純増5名

●会員増強および退会者0クラブ賞

■酒田湊RC／退会者0名、会員増強4名

■寒河江さくらんぼRC／退会者0名、会員増強3

●退会者0クラブ賞

■遊佐RC／退会者0名で退会防止に貢献

■東根RC／退会者0名で退会防止に貢献

■河北RC／退会者0名で退会防止に貢献

■中山RC／退会者0名で退会防止に貢献

【個人】

●会員増強優秀個人賞

池田　一郎（酒田湊RC）新会員2名の入会
飯塚　俊悦（酒田湊RC）新会員2名の入会
熊谷　芳則（酒田東RC）新会員2名の入会
迎田　　健（鶴岡RC）　新会員2名の入会
梅津　武雄（余目RC）　新会員3名の入会
早坂　　稔（新庄あじさいRC）新会員5名の入会
佐藤　充彦（山形RC）　新会員2名の入会
野々村政昭（山形RC）　新会員6名の入会
榎森伊兵衛（山形RC）　新会員2名の入会
長谷川吉茂（山形RC）　新会員3名の入会

●地域発展のための多大なる貢献

佐藤　　充（山辺RC）
町内小中学校1,314名に防犯ベル・シールを贈呈

井田　辰男（寒河江RC）
23年間少年野球スポーツ少年団の監督として健全な青少年育成活動を図り地域社会へ貢献した

森　　利淳（村山ローズRC）
ブラジルへのGSE派遣チームリーダーとして多大な貢献をした

中澤　　潔（鶴岡西RC）
2005～2006年度地区幹事

木村　有為（鶴岡西RC）
2005～2006年度地区資金委員長

丸藤　只孝（八幡RC）
2005～2006年度第1ブロック・ガバナー補佐

富樫　幸彌（鶴岡東RC）
2005～2006年度第2ブロック・ガバナー補佐

横尾智三郎（東根RC）
2005～2006年度第3ブロック・ガバナー補佐

涌井　次一（新庄あじさいRC）
2005～2006年度第3ブロック・ガバナー補佐

五十嵐清之助（朝日RC）
2005～2006年度第4ブロック・ガバナー補佐

伊藤　修二（山形RC）
2005～2006年度第5ブロック・ガバナー補佐

須藤　太一（上山RC）
2005～2006年度第5ブロック・ガバナー補佐

今井　三男（米沢上杉RC）
2005～2006年度第6ブロック・ガバナー補佐

網代　欽二（南陽RC）
2005～2006年度第6ブロック・ガバナー補佐

表　彰

ロータリー財団寄付表彰

●100％「財団友の会」会員クラブ表彰
■温海RC／2004～2005年度の100パーセント「財団友の会」会員クラブ
■南陽RC／2004～2005年度の100パーセント「財団友の会」会員クラブ
■酒田スワンRC／2004～2005年度の100パーセント「財団友の会」会員クラブ
■鶴岡南RC／2004～2005年度の100パーセント「財団友の会」会員クラブ

ポール・ハリス・フェロー表彰

●25,000ドルに前年度中に達成
金　　烘鍾（鶴岡東RC）
●15,000ドルに前年度中に達成
遠藤栄次郎（山形西RC）
●10,000ドルに前年度中に達成
加藤　有倫（鶴岡西RC）
小松　栄一（寒河江RC）
●5,000ドルに前年度中に達成
羽根田　敦（山形南RC）
黒澤市三郎（白鷹RC）
●新マルチプル・ポール・ハリス・フェロー表彰
酒田中央RC／平野　　宣
鶴岡RC／斎藤　　昭・佐々木　彦
鶴岡西RC／菅原　　登・池田　徳博
余目RC／太田　　登
鶴岡東RC／白幡　秀松・富樫　幸彌・佐藤　浩士
天童RC／山本　　晃・芦野政五郎
天童東RC／鞍掛　彰秀
尾花沢RC／青野　　隆
村山ローズRC／井沢　文利
寒河江RC／佐藤　栄一
大江RC／小国　恵正・兼子　秀夫
寒河江さくらんぼRC／鈴木　茂範
山形RC／金山宏一郎
山形北RC／庄司　建郎・鈴木　孝一
山辺RC／佐々木幸吉
山形南RC／長谷部成昭・黒田　忠雄・林　　正
山形西RC／平吹　和之・大場　正仁・新藤　幸紀
　　　　　安部　雄策
米沢上杉RC／有坂　　敦・前山　郁朗・尾形　利昭
白鷹RC／黒澤市三郎・江口　俊雄
南陽東RC　　島貫　幸雄　（43名）
●新ポール・ハリス・フェロー表彰
酒田RC／羽藤　龍蔵
酒田東RC／伊藤　淳一
酒田中央RC／大滝　健二・三井　正一
平田みすみRC／白戸　勝芳
鶴岡西RC／中澤　　潔・斎藤　健治
鶴岡東RC／斎藤　　元・斎藤　康介
鶴岡南RC／本田　　学
天童RC／武田　幸夫
村山RC／板垣　訓由
村山ローズRC／片桐　　隆
寒河江RC／相座　弘寿・荒木　良市・井田　辰男
　　　　　伊藤　政美／早坂　源重
朝日RC／多田　清一
山形RC／佐藤松兵衛・林　　政俊
山形南RC／冨樫　平一
山形西RC／多田　悦巳・一条　正彦・高橋　勝治
　　　　　半田　　稔・長澤　裕二
上山RC／山川　庸久
山形中央RC／板垣喜代志
米沢RC／牧野　俊夫
米沢上杉RC／徳重　和浩
長井RC／大竹　　薫
南陽RC／近野　永順
白鷹RC／金田　芳宏・長谷川俊夫
南陽東RC／今井　治雄　（36名）

（財）ロータリー米山記念奨学会表彰

●米山功労クラブ表彰

山形西RC	610,000円
山形中央RC	420,000円
白鷹RC	300,000円
鶴岡東RC	100,000円
天童RC	100,000円
米沢中央RC	100,000円
米沢RC	60,000円
山形南RC	50,000円
南陽東RC	50,000円
山形北RC	10,000円

●寄付総額上位5クラブ表彰

1.山形西RC	1,515,000円
2.山形北RC	1,463,000円
3.山形南RC	1,154,000円
4.寒河江RC	856,000円
5.天童RC	824,500円

●二千万円達成クラブ表彰
鶴岡RC／天童RC／山形北RC／山形南RC

●クラブ創立記念特別寄付表彰
鶴岡西RC／創立40周年記念時　10万円

表　彰

●米山功労者表彰

〈第27回米山功労者〉

金　　洪鍾（鶴岡東RC）

〈第12回米山功労者〉

藤川　㪯胤（鶴岡RC）

〈第6回米山功労者〉

丹野　喜助（山形南RC）

〈第3回米山功労者〉

佐藤　豊彦（天童RC）
武田　亢男（村山RC）
橋本　重幸（天童東RC）
黒澤　　洋（天童東RC）
菅野　耕吉（寒河江RC）
林　　　正（山形南RC）
佐藤　幸雄（白鷹RC）

〈新米山功労者〉

酒田RC／丸藤　雅毅
鶴岡西RC／石黒　慶一
鶴岡東RC／富樫　幸彌
天童RC／山本　　晃・松村　澄男
村山RC／森　　和雄
東根RC／山本昭太郎
天童東RC／阿部　米位・分銅　昭夫・鞍掛　章秀
寒河江RC／井田　辰男・菅野　耕吉
河北RC／斎藤　　正
山形RC／佐藤　充彦
山形北RC／細川　伸一
山形南RC／菊地　　薫・黒田　忠雄・荒井　恵一
山形西RC／晋道　純一
米沢RC／秋葉　隆子・和田　　実
米沢中央RC／今井　健次・斎藤　明人　（23名）

出席率優秀ロータリアン表彰

●40年間表彰

鶴岡西RC／桜井　　清
村山RC／榊　　直徳
山形RC／岡崎彌平治

●30年間表彰

立川RC／北楯　　学
山形北RC／堀米　　哲
山形南RC／青山恵一郎・五十嵐恒男・丹野　喜助
山形西RC／高井　利雄
上山RC／杉原　宏美
白鷹RC／黒澤市三郎

●20年間表彰

鶴岡西RC／石黒　慶一・三井　盾夫・斎藤　喜一
村山RC／武田　亢男
天童東RC／瀬野　芳雄
寒河江RC／沖津　朝治
山形RC／浜井　国雄・浜田　　敏・船橋　征吾
山形北RC／早坂　昭一
山辺RC／三浦忠一郎
山形南RC／日下部功夫・武田　秀則・矢尾板信孝
山形西RC／鈴木　重行・尾形　　亨

●10年間表彰

鶴岡RC／丸山　隆志・加藤　恒介・嶺岸　禮三
　　　　若生　恒吉
余目RC／佐々木源幸
鶴岡南RC／後藤　八郎
天童西RC／仲野　宗治・高橋　俊裕
寒河江RC／大沼　孝己・小松　栄一・池田郁太郎
　　　　　早坂　源重
大江RC／大泉　清一
河北RC／佐藤　秀男・和田　光雄
山形RC／五十嵐慶三・岡崎　勝芳・平吹　和典
山形北RC／富田　昌弘・佐藤　秀昭・中野　俊助
　　　　　渡利　隆一
山辺RC／峯田　季志
山形南RC／稲村　佳宏
山形西RC／武田　信博・武田　元裕
上山RC／内野　庄逸・高橋　友幸
米沢RC／神林美彌子・吉田　　悟・濱田　ちゑ
長井RC／齋藤　喜内・井上長太郎　　（33名）

永年在籍ロータリアン表彰

鶴岡西RC／桜井　　清（40年）
村山RC／榊　　直徳（40年）
東根RC／古瀬　　智（40年）
山形RC／岡崎彌平治（40年）
高畠RC／後藤康太郎（40年）
高畠RC／新野弥文次（40年）

八十八歳ロータリアン表彰

余目RC／佐藤孝二郎　　寒河江RC／奥山　智一

出席率優秀クラブ表彰

●前年度中で平均出席率95％以上が表彰対象

1位	八幡RC	100％
2位	山形RC	99.26％
3位	温海RC	98.58％
4位	鶴岡西RC	98.25％
5位	長井RC	96.98％
6位	米沢中央RC	95.79％
7位	酒田湊RC	95.16％

来賓ご芳名

一般来賓

山形県知事	齋藤　弘 氏
酒田市長	阿部　寿一 氏
酒田商工会議所会頭	齋藤　成徳 氏
東北公益文科大学学長	小松　隆二 氏

国際ロータリー会長代理

国際ロータリー会長代理	前川　昭一 氏（東京豊島東RC）
御令嬢	中曽根真理子 氏

（敬称略）

地区外ロータリー関係

地区大会講師	佐原　元（喜多方RC）
令夫人	佐原和佳子
RI理事エレクト	小沢　一彦（横須賀RC）
RI研修リーダー	田中　徹夫（岩槻東RC）
RI第2640地区パストガバナー	中島治一郎（泉大津RC）
令夫人	中島　隆子
RI第2530地区ガバナー	寺島　岩男（原町中央RC）
令夫人	寺島　文子
RI第2790地区ガバナー令夫人	白鳥　信子（市原RC）
RI第2560地区直前ガバナー	神成　粛一（新潟西RC）
RI第2530地区直前ガバナー	紺野　嘉昭（福島北RC）
RI第2530地区ガバナーエレクト	牧　公介（船引RC）
令夫人	牧　朋子
RI第2560地区パストガバナー	吉田　昭平（村上RC）
RI第2520地区パストガバナー	菊池　弘尚（岩谷堂RC）
RI第2530地区パストガバナー	阿久津　肇（福島RC）
令夫人	阿久津セイ
RI第2770地区パストガバナー	関口　博正（杉戸RC）
令夫人	関口　官子
RI第2820地区パストガバナー	片岡　信彦（土浦南RC）
令夫人	片岡　雅子
ロータリーの友事務所編集担当	松本　光浩
RI第2530地区ガバナーエレクト事務所事務局	川合　勝子

第2800地区関係

RI第2800地区直前ガバナー	石黒　慶一（鶴岡西RC）
令夫人	石黒　征子
RI第2800地区ガバナーエレクト	大友　恒則（米沢中央RC）
令夫人	大友　幸子
RI第2800地区ガバナーノミニー	武田　和夫（山形南RC）
RI第2800地区パストガバナー	濱田五左衛門（米沢RC）
令夫人	濱田　綾
RI第2800地区パストガバナー	遠藤栄次郎（山形西RC）
RI第2800地区パストガバナー	加藤　有倫（鶴岡西RC）
令夫人	加藤　宏子
RI第2800地区パストガバナー	安孫子貞夫（寒河江RC）
令夫人	安孫子タマノ
RI第2800地区パストガバナー	渡部保太郎（長井RC）
令夫人	渡部　喜代
RI第2800地区パストガバナー	伊藤　政一（酒田中央RC）
RI第2800地区パストガバナー	高橋　文夫（山形北RC）
RI第2800地区パストガバナー	藤川　亨胤（鶴岡RC）
令夫人	藤川　一子
RI第2800地区パストガバナー	伊藤巳規男（大江RC）
令夫人	伊藤　久子
RI第2800地区パストガバナー	佐藤　忠宏（南陽東RC）
令夫人	佐藤　憲子
RI第2800地区パストガバナー	野々村政昭（山形RC）
令夫人	野々村圭子
RI第2800地区パストガバナー	野川　桂一（天童東RC）
令夫人	野川　敏子
RI第2800地区パストガバナー	豊田　義一（山形西RC）
令夫人	豊田　倭子
地区副幹事（大友年度地区幹事）	佐藤　斌（米沢中央RC）
地区資金委員（大友年度資金委員長）	鈴木　博雄（米沢中央RC）

青少年交換留学生

Nora Thomas（鶴岡南RC）／Wyatt Benno（立川RC）
ノエル・フロデリアス（大江RC）
鈴木　聡子（村山ローズRC）／青木　詩歩（東根RC）

国際親善奨学生

小野　智子（東根RC）／大川　浩子（平田みすみRC）
藏俣沙緒理（山形北RC）

GSE来日団員（RI第3080地区・インド）

サンディープ ルスラ／アジャイ スード
ハープリート カウアー／ラスナ シャーマ
ムニュシュ スインガル

GSE派遣団

熊川　恒志／加島　浩／長谷川　元

米山奨学生

房　家 琛（酒田RC）／馬　晋 峰（山形南RC）
朴　正 華（山形RC）／顧　祥 軍（寒河江RC）

記念事業
「ロータリーは応援します！地域に根差した奉仕活動」

趣旨

国際ロータリー第2800地区関原亨司ガバナーは、今年度の地区目標として「地域に根差した真心の奉仕」を掲げています。庄内地方特有の強風による飛砂、潮害等を防ぐクロマツ林保全活動は、まさに地域に根差した奉仕活動と言えます。

そしてその活動は、公益的精神の表れとして東北公益文科大学開学のバックボーンになっていると言っても過言ではありません。

今回の地区大会の記念事業として、公益的かつ地道な活動を続ける各団体、学校に対し今後の活動の支援を行うものです。

内容

①「山形県へ特別寄付」

②「酒田市へ特別寄付」

③「東北公益文科大学へ特別寄付」
大学運営を後援すると共に、パンフレット「公益の源流、酒田を歩く」の配布を行う。

④「記念植樹」
地域住民と協力し、クロマツ苗500本の記念植樹を行う。

⑤「活動支援」
目録贈呈　　森林保全活動用具一式

●万里の松原に親しむ会
万里の松原と呼ばれる酒田市光ヶ丘地区に広がるクロマツ林に於いて継続的な整備活動を行っている。

●遊佐町立遊佐中学校
3年生によるインターンシップinゆざを５年間に渡り実施し、遊佐町十里塚地区の国有林整備活動を行っている。

●酒田市立西荒瀬小学校
平成16年度に学習林を設定し、PTA、地域住民と連携して、先駆的森林保全活動、総合学習活動を行っている。

●鶴岡市立湯野浜小学校
庄内海岸砂防林の最南端である学校隣接の「浜っこ森」を学習林として、継続的な総合学習を行っている。

2006—2007年度 国際ロータリー第2800地区

地区大会決算書

大会実行委員長　伊藤三郎
大会幹事　白崎文雄
大会会計　羽藤龍蔵

収入の部

単位（円）

科目	項目	金額	摘要
登録料	人頭分担金	20,150,000	２０１５名×１００００円
	Ｒ．Ｉ晩餐会登録料	960,000	９６名×１００００円
	地区外登録料	920,000	
	小計	22,030,000	
その他	表彰負担金	801,000	
	お祝い金	640,000	
	小計	1,441,000	
繰入金	繰入金	1,000,000	地区大会（一般会計より）
	繰入金	550,000	地区表彰費（一般会計より）
	小計	1,550,000	
雑収入	預金利息他	619	
	収入合計	25,021,619	

支出の部

科目	項目	決算額	摘要
総務関係	記念事業費	1,200,000	県30万市30万植樹20万団体20万公益本20万
	表彰費	1,316,620	
	記念品費	200,000	ＲＩ会長代理
	宿泊費	806,940	ＲＩ会長代理、来賓、ＰＧ他
	旅費	300,506	講師等、旅費
	印刷製本費	1,616,060	大会広報等資料
	大会記録費	560,000	ＤＶＤ制作外
	会議費	415,315	実行委員会、分科会
	広告費	871,500	山形新聞　、荘内日報　、ハーバーラジオ
	事務費	1,206,321	人件費、事務用備品
	輸送費	154,680	送迎バス
	総務関係小計	8,647,942	
式典関係	会場費	4,771,114	会場使用料、看板等
	講演費	515,000	講演料
	ＲＩ会長代理昼食会費	118,500	７９名
	ＲＩ会長代理晩餐会費	1,208,890	２３３名
	大会昼食、飲食費	1,888,200	１５００名
	会員の夕べ懇親会費	5,845,000	大会出席者全員参加
	接待費	791,260	来賓接待
	エクスカーション費	67,650	
	ガバナー大会視察費	500,000	地区外旅費規程第２条３項（５回）
	式典関係小計	15,705,614	
	雑費	12,310	送金手数料他
	支出合計	24,365,866	

収入25,021,619 － 支出24,365,866＝ 残高655,753

地区大会の会計に関し、預金通帳、帳票等を監査しました結果　平成18年12月15日
上記の通り相違ないことを認め、ご報告申し上げます　監査委員　中澤潔
監査委員　藤塚恒

尚、残額655,753円は一般会計に繰入することを第3回諮問・指名委員会で確認する